

「学習の成立」をめざす意識調査の活用法

—調査項目と調査データのまとめ方—

子 安 一 徳

長 屋 正 弘

10 / 1979

映像の学習効果研究プロジェクト

「学習の成立」をめざす意識調査の活用法

—調査項目と調査データのまとめ方—

子 安 一 徳

(岐阜県教育委員会)

長 屋 正 弘

(岐阜市立長良西小学校)

10/1979

映像の学習効果研究プロジェクト

意識調査資料作成にあたって

学校教育目標を具体化し細目標項目を構成したとき、その目標が学習者にどのように学習され、また受けとめられたかを知り、次の発展への反省資料として意識調査が用いられることが多くなってきた。学校教育目標が教授・学習で計画的に展開されるには、各単元、授業前後、授業中で、教師がいかに意識化するかが問題である。そこに用いられる意識調査は、学校教育目標との関連において、学習者がいかに育っているかを知り、個、クラス、学年、学校、各教師、教科についての評価とし、次の学習への反省資料としたい。このために、今回、教授・学習における評価の窓（視点）を一般的な授業と放送教育に適用できる参考資料として作成した。（意識調査用紙の作成に当って、各学校の教育目標を具体化するとき、とくに注目すべき項目を選び、更に目的に応じた新しい項目を設定できるように考えた。）

細目標項目も、単に意識化しようとの掛け言葉で終わる場合がよくある。本当に具体化するためには、一人一人の学習者がどのように姿容したかを知り、その上に立った教師の反省が重要である。そこで、意識調査をするとき、教師は前もって一人一人の児童・生徒の姿を思い浮かべ、予想される反応を記入し、実際の反応との差を考察し、反省するとよい。本誌には、教師と学習者の反応、その差を記録できるような表を作成し巻末に付した。この表は学習者に調査を行わなくて、教師が一人一人の考えられる反応を予想し、教授者としての自己点検表として使用してもよい。学習者の反応を積み重ね、個人、集団の姿容を知り、より学習者に適応した指導の手だてを考えることは重要であるが、ときには、学習者に調査しなくて、教授者が各個の予想を書き、指導の反省資料として用いることも重要である。

この資料作成に当っては、坂元昂先生の緒論文、特に「教育工学の新しい展開」（第一法規）「CAI用学習プログラムの評価」の調査項目および方法を利用させていただいた。また、線結び方式は、教育実習生の教師教育で有効な方法として利用されだし、本誌にも学習の成立の指導面の評価法として記載した。

また、この小誌を作成の過程で、約8,000人の学習者に適用され、その反応データが岐阜大学カリキュラム開発研究センターで、多変量解析その他各種の解析処理がなされ、その結果を用いて訂正も一部行なった。

これらの研究に当って、協力いただいたプロジェクトの関係者かよび貴重な指導をいただいた岩崎潔先生に感謝の意を表します。

後 藤 忠 彦 （岐阜大学）
小 林 秀 臣 （県教育センター）
子 安 一 徳 （県教育委員会）
堀 口 昭 （県教育センター）
八 神 武 夫 （県教育センター）
長 屋 正 弘 （長良西小）

目 次

1. 意識調査の意義と活用法

(1) 意識調査と教師の手だて	1
(2) 意識調査の開発	2
(3) 意識調査の活用	4
(4) 学習指導への活用	7
(5) 意識調査用紙	8

2. 意識調査用紙とその意図

調査1 放送教育全体について意識調査	9
" 2 放送視聴直前における意識調査	12
" 3 視聴中の子どもの意識調査	15
" 4 視聴直後の意識調査	18
" 5 視聴後の話し合い学習の途中での児童の意識調査	21
" 6 授業終了直後の意識調査	24
" 7 1時間終了後の意識調査	27
" 8 放送番組を利用していない教科の学習についての意識調査	30
" 9 放送そのものに対する心情調査	33
" 10 視聴能力調査	36
" 11 視聴ノートの実態調査	39
" 12 話し合いに対する意識調査	42
" 13 行動目標の達成度を評するための調査	45
" 14 能力目標達成を評価するための調査	48
" 15 学校教育目標に対する意識調査	51

3. 調査の手順とデータ処理の仕方

(1) 二つの意識調査の持つ意味	53
(2) 意識調査の手順	53
(3) 結果の処理	55

4. 指導法に関する調査

(1) 調査内容および実施の仕方	61
(2) 処理法	62

5. 調査記入用紙	64
-----------------	----

「学習の成立」をめざす意識調査の活用法

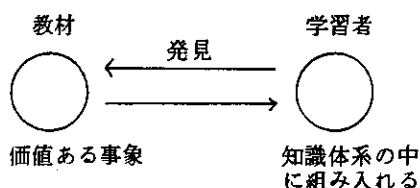
調査項目と調査データの処理の仕方

1. 意識調査の意義と活用法

はじめに

「学習の成立」についての考えはいろいろある。今、ここでは、「子ども」が「教師」の指導により、主体的に「教材」の中の価値を発見し、その価値を自らのものとして求め得たとき、「学習は成立した」と考えよう。

(勿論、教科内容や習熟過程は重要であるが、ここでは、「主体的学習による教材の価値の発見」、あるいは、「自ら求め得る」という表現の中に入れて考える。)



学習は、自ら発見し、獲得した価値を自分の知識体系の中に組み入れるものである。このとき、子どもは、自ら問題を解決したのである。

教師の役割は、価値ある教材を提示し、主体的な活動ができる動機づけを行い、興味と関心を持たせ、忍耐と努力を重ね解決行動を行わせることにある。そして、子ども自身でし終えたとき、子どものなした行為が価値あるものであると感じとらせるのである。

こんな学習のとき、「学習の成立」したと考えてみよう。

学習は、価値ある教材（学習目標）を子ども自身の解決活動（学習方法）で、筋道にあった順序（学習過程）で進めるとき、問題解決が成立することを考えてみると、TVをと

り入れた学習であっても、8mmをとり入れた学習であっても、その他、解決に必要ななどんな資料であっても、その本質は変わらないものである。

しかし、TVをとり入れた授業の「学習の成立」が特に強調されるのはなぜであろう。

それは、従来、示されてきた授業の多くがTV視聴後の学習が形式的な話し合いで終わってしまっている。参観者はもとより、学習者までが、何か物足りなさを感じている。この物足りなさは、「学習の成立」を意味しないことを示している。

ここで、TVをとり入れた学習で、「学習のよこび」がある授業を考えてみたい。

(1) 意識調査と教師の手だて

わたくしたちは、授業の準備をするために教材研究を怠らない。指導事例を見たり、教材の価値の検討、その配列等細心の注意を払う。しかし、その教材を学ぼうとする学級の子どもの研究をおろそかにしていないだろうか。

- ・この教材について積極性はあるのか。
 - ・教師の指導についてどんな感じをもっているのか。
 - ・学習のめあてをもって参加しているのか。
- など、学習に対する基本的な子どもの実態を捉えてはいない。

多くの指導者は、内容のみ与えようとしている。多くの内容を、順序よく、ともすると羅列的に与えようとしている。

与えるのではなく、自ら求め得ていく子どもを育てるのであるから、容け入れる子どもの実態を捉えねばならない。

ベテラン教師は、教材を無言で示すだけで輝やく目で追求してくる授業をする。それはその教師が、担任した当初において、子どもひとりひとりの実態を把握し、基本的な学業指導を施している。そのため、学級ひとりひとりの子どもが、「学ぶ楽しさ」を知っているのである。

だから、無言で提示しても、学ぶ楽しさの快感を味わおうと自ら追求してくるのであろう。

TVをとり入れると、学習の形態が変わる。子どもたちは、TVをとり入れたこと、学習形態が変わったことについてどんな気持ちをもっているだろうか。

- ・いろいろわかっておもしろい。
 - ・自分でも調べてみたいなあ。
 - ・だけど、いつも話し合いだけで、自分でできないなあ。
 - ・見ているだけで1時間が済んでしまうから考えなくてもいいなあ。
 - ・TV見るだけなら家でも見られるのになあ。
- 等々。

TVをとり入れない学習と比較しながら、その1時間を過ごす。子どもは、この1時間の学習のあり方について要求はしてこない。子どもは安易な方向に流れやすいものである。視聴後の視聴ノートをとることをいやがる子どもも非常に多いことが調査でもわかっている。教師は、ここに気づかねばならない。子どもの本当の気もちと、教師の願う「子どもの学習のあり方」のずれがあることに気づかねばならない。気づくことが、TVをとり入れた学習の授業の改革の第一歩になる。

学習に対する子どもの意識を捉える最も簡単な的確な方法の1つが意識調査である。

教師の授業改善をしていくためには、自分の授業の評価が必要になってくる。

授業改善の目的に応じてその意識調査の内容が決定され、実施する位置も明確になってくる。

しかし、この意識調査は、教師が自分の授業改善のみにされるのではなく、子どもの学習に対する積極性、興味、関心をも誘発するものでありたい。

つまり、意識調査する内容を提示することによって改めて子どもに意識させ、結果として、学習に関心をもたせたり、更には、意識調査することによって教師が反省を加え、次時の授業に改善を加え、子どもが学習に積極的になった事実を認めてやることなどによって、意識調査が、子ども自身の学習が前進的改善されることである。

(2) 意識調査の開発

意識調査の内容は教師が何を調べ、授業のどこを改善しようとするかによっていろいろ異なる。

例えば、「国語の授業は好きか、嫌いか」を調べるとしよう。

子どもの中には

- ・国語の勉強する内容が好き、嫌い
- ・国語の勉強のし方が好き、嫌い
- ・国語の勉強をするときのグループが好き、嫌い

- ・国語の先生が好き、嫌い

など感覚的、総合的、また部分的に判断する教師は、国語の好き、嫌いによって何を読みたいと思うかははっきりする必要がある。

このように意識調査の項目を決定するとき

大切なことは、授業と学習の評価、つまり、教える側の教師と学ぶ側の子どもの両面を考
えることである。

① 意識調査項目、内容の決定

新採のように経験の少ない教師や子どもの把握のできない教師は、学習を成立させるための、「学業指導」として何が
必要か、何が不足しているのか調べたい。

逆に、経験の積んだ教師に求めたいことは、教師の指示待ちという受身の学習から脱脚させ、自分から求めて学習活動する子の育成をはかるための基本的な要素を明らかにしたい。

② 子どもの学習能力に応じた内容

子どもが意識調査の項目を読んで、学習に対する積極さや関心、興味や能力が自覚できるものであることが望ましい。

低位の学級集団に対しては、学習の中で少なくとも一度は集中したり、好意をもって参加する場をさぐり、学習には求める、分かる楽しさがあることを調べるものにしたい。

高位の学級集団については、追求の仕方など、学習方法の多様性を発見する楽しさがあることを調べるものにしたい。

③ 授業、学習過程の中での意識の変化を読みとる内容

どんな子どもでも、科目による好き、嫌いがある。授業を始める前に抱えている意識は、学習の内容により、教師の言動、指導法、学習環境によって、刻々と変化していく。子どもにとって変化する原因を明らかにすることはできないが、学習が楽しくなったり、つまらなくなったりすることは意識している。

この変化を読みとり、その意識に対応した手だてを施すことができるようにしたい。その調査する時点は授業者の意図によっていろいろあるが、基本的には学習前、手だてを施

す前・後、学習後など8時点以上あると変化を読みとることができる。

④ 意識調査とその形式

調査したい内容をどのように表記すると子どもにわかりやすいか、また、結果からその内容を判断するとき、どんな表記のしかたがよいかなどは大切なことである。

調査はしたが、処理に困る。表わし方、読みとり、活用のし方が不備なので調査内容が生かされないことも多い。

好き、嫌いという意識調査でも

どれかの番号に○をうちなさい

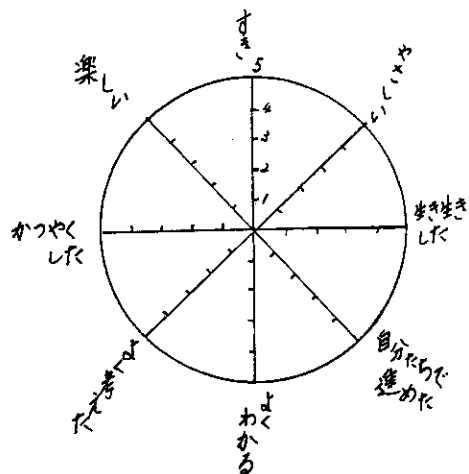
- ㉞ 好き ① _____ ② 嫌い
- ㉟ 好き ① _____ ② _____ ③ 嫌い
- ㊱ 好き ① _____ ② _____ ③ _____ ④ _____ ⑤ 嫌い

A、B、Cから1つずつ選んで

線を引きなさい

- ㊲ A B C
- 好き 勉強の内容 よくわかる
- 嫌い 先生の言葉や動作 わからない
- 先生の教え方
- グループ友だち

㊳ 自分の気持ちにあった番号を選び線を引きなさい



上に示したいろいろな形式が考えられる。どれがよりベターかということは、教師自身が作り、使って、修正したものから納得のいくものでいえることである。選択肢が多く、ばらつきの多いものは精選した方がよい。

以上のことをもとにして、放送教育における意識調査として作ったものが下のサンプルである。

放送教育の意識調査の例

意識調査 1-1 放送教育全体についての意識調査

____年 ____組 ____番 男・女
名前 _____

テレビやラジオを使ってべんきょうすることについて、あなたはどんなことを感じていますか。①から⑯までの一つ一つについて、自分の気持ちに一番近い番号に○をうちなさい。

(例) かたくりしい 1 2 3 4 5 うちとけている

① つまらない	1 2 3 4 5	おもしろい
② したみにくい	1 2 3 4 5	したみやすい
③ ひらやうになれる	1 2 3 4 5	ひらやうになれない
④ おとった	1 2 3 4 5	すぐれた
⑤ 古い	1 2 3 4 5	新しい
⑥ かたい	1 2 3 4 5	やわらかい
⑦ わらい	1 2 3 4 5	よい
⑧ とりつきにくい	1 2 3 4 5	とりつきやすい
⑨ 勉強のしかたとしてわるい	1 2 3 4 5	勉強のしかたとしてよい
⑩ むずかしい	1 2 3 4 5	やさしい
⑪ つめたい	1 2 3 4 5	あたたかい
⑫ いそがしい	1 2 3 4 5	おちついている
⑬ わかりにくい	1 2 3 4 5	わかりやすい
⑭ いらいらする	1 2 3 4 5	おちついていられる
⑮ かんたんである	1 2 3 4 5	ふくざつである
⑯ つかれる	1 2 3 4 5	つかれない

(3) 意識調査の活用

日々の全ての授業について指導案を書き、評価することはなかなかできない。普通、感覚的に授業をすすめ、感覚的に評価している。しかし、この感覚的授業で、「子どもは多分〜だろう。」「〜かもしれない。」の判断と、実際の子どもの姿にはずいぶん違いがある。

その証拠に2〜3人でよいが、教師が判断するその子どもの意識を予想して表記してみよう。次に、その子どもに実際に調査して比較してみよう。

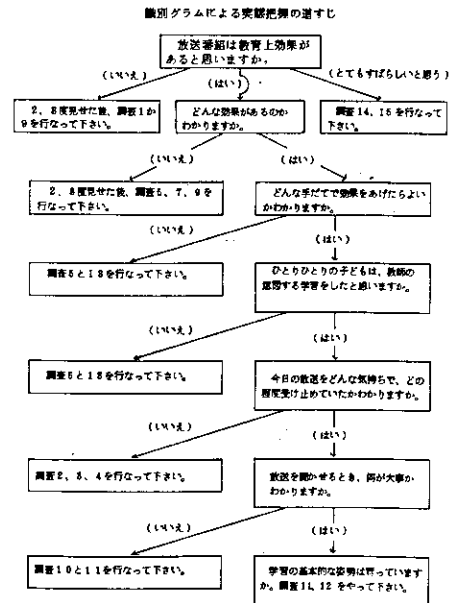
どうだろう。ずいぶんずれがあることに驚くものである。

自分の授業を時々きびしく見つめることは教師の感覚を養う上においても大切なことである。

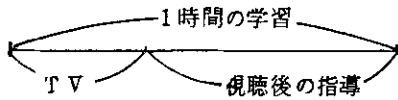
意図的な授業を設定し、じっくり自分の授業を見つめ授業改善をしたい。

その授業改善の手がかりとして、意識調査によって教師とのずれを明らかにして、自己評価することが大切である。

次に示す図は、放送を学習の中にとり入れるとき、「学習の成立」という観点で授業改善をしていく手順を示したものである。



この図の意味する基本的な考え方は、次のようである。



上記のような学習の形態の時の考えてみよう。

子どもたちは、TVの視聴中に学習をすすめている。しかも、放送番組は問題解決の過程を踏まえているから、完全視聴できればTVの視聴のみで学習は成立したことになる。

しかし、実際は子どもの視聴能力の問題、番組内容の難易の問題、カリキュラムの進捗の問題等があるので、視聴のみによって学習が成立したとは考えられない。そこで、視聴後の指導も含めた1時間全体の学習の成立を考えないといけない。

それは、視聴後の指導をどう指導するかによって、学習の成立のし方が変わってくる。

① 1つは、番組内容をもう一度吟味し直して、理解を目的とする学習が考えられる。この学習は、お互いが理解したことを出し合い、また、質問をし合うという話し合いが主体になる学習になる。

② 2つ目には、放送番組はある学習問題の問題解決学習の手本、モデルを示してくれたとする考え方である。視聴後の指導はTVによって示された問題解決法の検討、自分たちで学習する時のその修正など、モデルとしてTVを見つめて、自分たちの学級の学習を改善していく考え方である。

この学習は、解決法の考え出し方、判断のし方、問題の検討のし方が中心となるため、ノートを見ながら、反省し、書き込み、前時の学習の再検討などひとり学習、グループの話し合いが主体になる。

③ 3つ目には、TVの視聴で子どもが学習を成立させる視聴能力が育っており、ほぼ視聴し得たとする考え方である。

視聴後の指導は、TVの使用した素材を変えて提示したら、また、番組内容から考えて次に生ずる問題、残された問題等、番組から発展して新しい問題を直接問題解決することである。

この学習では、子どもたちに問題が投げかけられ、主体的に行動的に問題解決することが考えられる。

以上のように3つの学習パターンを視聴後の指導として考えたとき、前に示した識別プログラムの流れ図によって学習の実態をつかむことを考えたものである。

①の学習を目的とするとき、子どもたちに視聴能力が極端に低かったり、話し合いのし方が身につけていないと成立しない。

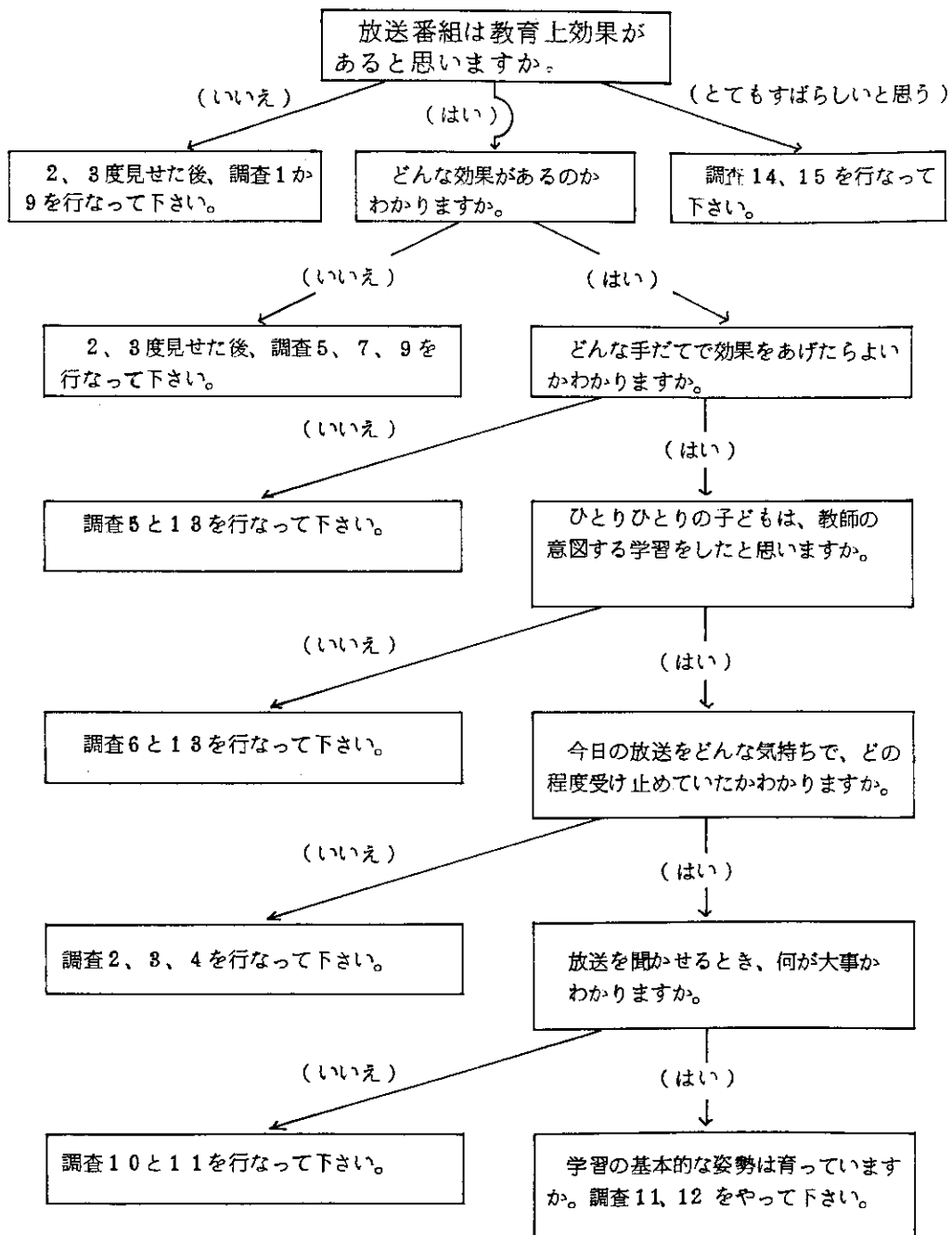
②の学習を目的とするとき、問題解決のし方、順序がわからなかったり、ノートが毎時間整理されていなかったり、グループの話し合うし方が訓練されていないことには成立しない。

③の学習においては、絶えず教師の指示で学習をすすめている学級、問題解決の方法がわからないようでは成立しない。

このように学習を成立させるための要素が育てられていないと、放送教育の学習の成立もあり得ないことになる。

では、自分の学級で学習の成立のどんな要素が欠けているかを子どもの意識調査によって見つけようとするのが、意識調査の識別プログラムである。

識別グラムによる実態把握の道すじ



(4) 学習指導への活用

この意識調査の活用のし方の実際を考えてみよう。

① 意識調査のし方

調査項目を選び、短時間で教師の目的とする内容と場を決定し、調査用紙を学級の人数分用意する。(今は便利な電子リコピーで本をそのままコピーできる。)

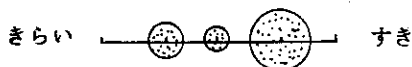
調査項目を全部行ってもよいが、教師が必要なものだけ選択してもよい。また項目の中には、類似した内容もある。(例 意識調査1では ⑦ わるい ⑧ とりつきにくい ⑩ つめたい ⑬ わかりにくい など) これらはどれか1つにまとめてもいい、また、特別につけ加えたい項目を入れてもよい。

短時間に直観的に記入させたい。問題解決の意識が連続しているある一点での意識を調査するのであるから、意識が断絶しない程度に短時間にしたい。

そのためには、1時間のうちで調査したい項目を列挙するか、必要な枚数を最初に配っておく、選択肢を5から8に、3から2に減らし、一調査を1分以内にしたい。慣れると子どもたちも手速く行う。

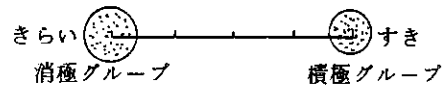
② 調査の集計とその読みとり

一目でわかる方法で観点をもった意味づけ
調査結果を集計するには、ひとりひとりをスロット(点)で記録し、スロットの密集している群をマーカする方法、また全部のスロットの数から平均をとる方法、一番の集まり、モードを読む方法がある。



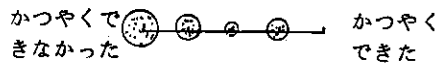
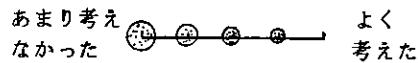
この図に表われた集まり方で見ると学級の凝結状態、能力の分散状態がわかる。

ある評価点を中心にバラついていれば、その項目内容について実態としてかたまっているといえる。また、2群に分散していれば、学習に対して積極的であったグループと消極的であったグループを意味する。しかも、そのグループの隔りが大きいとき、教師は上位



のグループのみを対称にして指導したことがわかる。

また、思考・行動の意識内容の調査で評価が下位の時は、教師が子どもの感情を考慮することなく一方的に指導した時や、教師の説明、内容のおしこみだけで、子どもたちの主体的学習ではなかったことを物語っている。



教師の一方的授業に多い例

また、全ての評価点にスロットが散在するときがある。意識が散漫になっていることを



表わしている。少なくとも、学習者である子どもの中に、しっかりやっている子、注意されてきく子、きかない子、全然参加していない子がいることを示している。

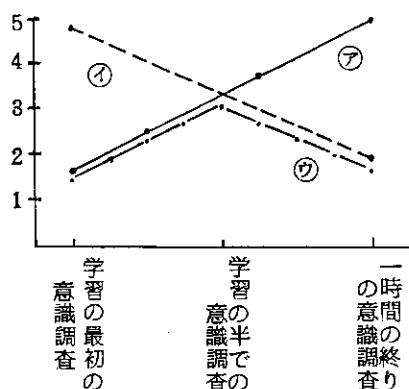
このように、スロットの集まり方によってその中に意味するものを見つけ、教師の授業評価ができるものである。

更に、スロットの集まりの低い評価の内容だけを集めてみる。その関連性を考えると、指導内容の構成のし方と指導方法のあり方も読みとることができる。

もし、一時間に2回以上の意識調査をすることができれば、同じ内容の項目の評価の変化を見ると、意識の変化が読みとることができる。

学習のパターンとして、最初に問題をもち苦しみ、考えながら解決し、1時間の学習の終わりには、自分で解決できたよこびで終りたい。

もし、このような学習ができるならば、全体としての傾向は（平均値として）



実線②のように評価点が上がっていくことになるだろう。

点線①のように下がる時、動機づけはよかったが、学習の構成のし方がよくない、そのため最初はやる気はあったが、だんだん興味を失い、わからないままに終わったということになるだろう。

一点破線③のように、学習の半ばで上がる例もある。これは、動機づけはよくなかったが、学習活動として、子どもに直接はたらかせ活躍させる場があった。しかし、結果としてわからずじまいに、あいまいになって終わる例である。例えば、理科の実験で意味がわからずじまいで、実験だけして終わったという場合に多い。

その他、出現する曲線として、意識が高い

評価を維持しながら最後まで続く、中程度で続く低いレベルのまま終わるなどいろいろあるが、それぞれその意味するところを考えてみたい。

③ 他の学習への利用のし方

意識調査は本来、子どもが行動や表現しているもとになっている意識を調べることで、つまり、行動や表現と意識の関係を調べるものである。その行動や表現を支配している意識は教師の指導能力を高めるために使うものである。どんな学習でも、指導のし方には共通性があるので、1つの教科について研究すれば、発展をして考えられる。

しかし、逆に教科の特性があることを考えると、その特性にあった指導のし方も追求したいものである。

下に示したものは、その1例であるが、何項目かはその教科にあった内容がつけ加えられるように空白にしておくこともよい。

(5) 意識調査用紙

以上の考えをふまえ、「放送教育に関するもの」、また、「ふだんの学習に関するもの」それぞれについて、14枚ずつの調査用紙を掲載した。

放送に関するものは、(1-1)から(14-1)まで、ふだんの学習では、(1-2)から(14-2)までである。また、その調査用紙の前には、簡単な解説がつけてある。どの調査用紙についても、「解説」「放送教育」「ふだんの学習」の順で並べてある。

解説については、紙面の都合上、上部は放送教育について、下部はふだんの学習に関するものについて述べてある。なお、解説末の表は、ふだんの学習に関する調査についてのものである。

2. 意識調査用紙とその意図

意識調査 1-1 放送教育全体についての意識調査

放送教育についての効果は既に認められているところである。しかし、一方、放送教育について警戒の声も聞かないでもない。その主な根拠として、放送教育に対する手だてがよくわからないとか、あるいは、放送番組の内容や難易度等の問題があげられる。しかし、最も重要なことは、これらの問題そのものより、そこから生ずる放送学習に対する子どもの意識である。

この調査は、それらの問題をどうとらえ、どのように解決していくかという方向をさぐるための出発点となる子どもの意識を調べようとするものである。

1-2 学習一般についての意識調査

日頃、何時間も行っている授業に対して、子どもたちは、どんな気持ちで臨んでいるのであろうか。そうした子どもの内面を考慮に入れ指導に当たっている教師は、どれほどいるであろうか。その証拠に、子どもが帰った後、数分でよいから、教壇から教室を見回わし、その日の授業を思い起こして見てほしい。毎時間の授業で、どの子がどんな活動をしたか想起できるであろうか。また、一人一人の子どもについて、その日の活動や学習ぶりがはっきりと言えるであろうか。机と名前さえ、すらすらと結びつかないことさえある。

そこで、一時間の授業に臨む子どもの内面を調査し、日頃無意識になりがちな「一人一人の子ども」に目を向けると同時に、子どもがよるこんで参加する「学習の成立」をめざす糸口としたいものである。

なお、下の表は、調査活用のための一つのみやすをつけたものである。この意識調査により、どこに問題がありそうなのかを探り出す資料である。

あなたが、どれほど子どもをつかんでいるかを確かめるために、この調査についての子どもの反応を予想して臨むと一層効果があるはずである。〔P57(C)参照〕

調査できる内容

項目番号 調査内容	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
学習内容に関する内容	○	○			○	○		○		○	○	○			
教師の言動に関する内容		○	○			○	○		○				○	○	○
指導法・技術に関する内容				○	○	○	○	○		○	○	○		○	○
学習場面の雰囲気に関する内容	○	○		○	○	○		○			○			○	

意識調査 1-1 放送教育全体についての意識調査

___年 ___組 ___番 男・女

名前 _____

テレビやラジオを使ってべんきょうすることについて、あなたはどんなことを感じていますか。①から⑯までの一つ一つについて、自分の気持ちに一番近い番号に○をうちなさい。

	(例)	かたくなるしい	1	2	3	4	5	うちとけている
①	つまらない		1	2	3	4	5	おもしろい
②	したしみにくい		1	2	3	4	5	したしみやすい
③	むちゅうになれる		1	2	3	4	5	むちゅうになれない
④	おとった		1	2	3	4	5	すぐれた
⑤	古い		1	2	3	4	5	新しい
⑥	かたい		1	2	3	4	5	やわらかい
⑦	わるい		1	2	3	4	5	よい
⑧	とりつきにくい		1	2	3	4	5	とりつきやすい
⑨	勉強のしかたとしてわる い		1	2	3	4	5	勉強のしかたとしてよい
⑩	むずかしい		1	2	3	4	5	やさしい
⑪	つめたい		1	2	3	4	5	あたたかい
⑫	いそがしい		1	2	3	4	5	おちついている
⑬	わかりにくい		1	2	3	4	5	わかりやすい
⑭	いらいらする		1	2	3	4	5	おちついていられる
⑮	かんたんである		1	2	3	4	5	ふくぎつである
⑯	つかれる		1	2	3	4	5	つかれない

意識調査 1-2 特定の学習に対する意識調査

____年 ____組 ____番 男・女

名前 _____

あなたは、○○の（○○を使っの）勉強について、どのように思っていますか。<れい>にならって、あなたの気持ちに近い番号に○をつけなさい。

- | | | | |
|------|-----------|-----------|-----------|
| <れい> | かたくるしい | 1 2 3 ④ 5 | うちとけた |
| ① | つまらない | 1 2 3 4 5 | おもしろい |
| ② | くらい | 1 2 3 4 5 | あかるい |
| ③ | おとっている | 1 2 3 4 5 | すぐれている |
| ④ | いそがしい | 1 2 3 4 5 | ゆったりしている |
| ⑤ | つかれる | 1 2 3 4 5 | つかれない |
| ⑥ | したしみにくい | 1 2 3 4 5 | したしみやすい |
| ⑦ | だらだらとした | 1 2 3 4 5 | ぴりっとした |
| ⑧ | ぼんやりとしている | 1 2 3 4 5 | すっきりしている |
| ⑨ | こわい | 1 2 3 4 5 | やさしい |
| ⑩ | わかりにくい | 1 2 3 4 5 | わかりやすい |
| ⑪ | むちゅうになれない | 1 2 3 4 5 | むちゅうになれる |
| ⑫ | ふくざつだ | 1 2 3 4 5 | かんたんだ |
| ⑬ | ふこうへい | 1 2 3 4 5 | こうへい |
| ⑭ | いらいらする | 1 2 3 4 5 | おちついていられる |
| ⑮ | ごつごつした | 1 2 3 4 5 | なめらかな |

意識調査 2-1 放送視聴直前における意識調査

放送番組を利用した学習をする場合、視聴を1時間の学習のどこに位置づけるかが問題となる。しかし、どこに位置づけようと、その番組を行動目標達成のための必然の過程ととらえなければならないという点では変わりがない。そこで、重要になることは、視聴直前の、これから視聴しようとする番組に対する子どもの意識である。これは、単に、番組の視聴に対する子どもの態度にとどまらず、その後の学習の原動力となるか否かにかかわる岐路ともなるからである。

また、この時の子どもの意識は、放送を利用する学習に対して、あるいは、番組の内容に対して、さらには、視聴前後の学習の影響や見通し等複雑に絡みあって表われるものであると考えられる。

そこで、番組視聴直前の意識を調査分析することにより、番組視聴に立ち向かう子どもの意識を的確にとらえ、そこまでの学習展開をふり返り、さらには次の学習への手だてを探る起点としようとするものである。

2-2 学習直前の意識調査

今、学習に立ち向かおうというとき、子どもが意気どみこんで入る場合と、そうでない場合とがある。そこで、授業直前の意識を、えようとするのがこの調査である。なかなか軌道にのらない原因や逆に意気どむ原因が探れば、次の学習に生かすことが可能になる。特に、直前ということで、子どもたちの意識が授業と直結しているという点から、反省資料として大きな意味がある。

ここでは、特に、学習に立ち向かう姿勢を作り出している原因が何であるかを、下の表を参考に明らかにしたい。そのためには、全項目について調査するのが望ましい。

調査できる内容

項目番号 調査内容	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
学習内容に関する内容		○	○		○	○	○	○	○		○	○		○	
教師の言動に関する内容			○					○		○	○		○		○
指導法・技術に関する内容		○	○				○		○	○			○	○	○
学習場面の雰囲気に関する内容	○	○		○	○			○	○					○	

意識調査 2-1 放送視聴直前における意識調査

___年 ___組 ___番

男・女

名前 _____

これから見たり聞いたりする番組について、どんなことを感じていますか。①から⑩までについて、自分の気持ちに一番近い番号に○をうちなさい。

- | | | | |
|-----|--------------------|-----------|-----------------|
| (例) | かたくなるしい | 1 2 3 4 5 | うちとけている |
| ① | くだらない | 1 2 3 4 5 | おもしろい |
| ② | 心をひかれる | 1 2 3 4 5 | 心をひかれない |
| ③ | とりつきにくい | 1 2 3 4 5 | とりつきやすい |
| ④ | いらいらする | 1 2 3 4 5 | おちついていられる |
| ⑤ | おもしろそうでない | 1 2 3 4 5 | おもしろそうだ |
| ⑥ | めんどうである | 1 2 3 4 5 | めんどうでない |
| ⑦ | むずかしそうである | 1 2 3 4 5 | やさしそうである |
| ⑧ | ほかのことを考えそうである | 1 2 3 4 5 | 熱心に見れそうだ |
| ⑨ | 何のために見るのかわからない | 1 2 3 4 5 | めあてをもってみれそうだ |
| ⑩ | べんきょうになることがなさそうである | 1 2 3 4 5 | いいべんきょうができそうである |

意識調査 2-2 学習直前の子どもの意識調査

___年 ___組 ___番 男・女

名前 _____

これからする勉強に対して、どんなかんじをもっていますか。〈きれい〉にならって、あなたの気持ちに、いちばん近い番号に○をうちなさい。

- | | | | |
|-------|---------|-------------|-----------|
| 〈きれい〉 | かたくるしい | 1 2 3 (4) 5 | うちとけた |
| ① | いらいらする | 1 2 3 4 5 | おちついていられる |
| ② | 心をひかれない | 1 2 3 4 5 | 心をひかれない |
| ③ | かたい | 1 2 3 4 5 | やわらかい |
| ④ | しずか | 1 2 3 4 5 | にぎやか |
| ⑤ | みじかい | 1 2 3 4 5 | 長い |
| ⑥ | くだらない | 1 2 3 4 5 | ねうちがある |
| ⑦ | むずかしい | 1 2 3 4 5 | やさしい |
| ⑧ | よそよそしい | 1 2 3 4 5 | したしい |
| ⑨ | つまらない | 1 2 3 4 5 | たのしい |
| ⑩ | ごつごつした | 1 2 3 4 5 | なめらかな |
| ⑪ | くらい | 1 2 3 4 5 | あかるい |
| ⑫ | 新しい | 1 2 3 4 5 | ふるい |
| ⑬ | かたくるしい | 1 2 3 4 5 | なごやかな |
| ⑭ | ねむたくなる | 1 2 3 4 5 | めがさめる |
| ⑮ | おそい | 1 2 3 4 5 | はやい |

意識調査 3-1 視聴中の子どもの意識調査

視聴中、子どもたちがどんなことを考えているかをつかもうとするものである。このときの子どもの意識は、視聴前に視聴のめあてについて話し合っているかいないかで異なるが、少なくとも、ただ単にストーリーに浸っているのか、あるいは、批判的に問題提起をしながら見ているのかを見極めることが大切である。それは、それ以後の学習の成立条件と深くかかわるし、また、視聴能力を高める手だての改善にもつながるからである。

3-2 学習の途中での意識調査

この調査は、一分節を終えた時点で、一分節の教授活動の評価と次への展開についての意識を調査するものである。言わば、「つなぎ」がうまく成立したかを確認するものである。

授業では、おうおうにして、足場づくりを十分しないで次へ急いだりして、だんだん深みにはまりこんでいくことがある。そこで、ある一分節で行った教授＝学習活動が、学習前の意識を考慮して行われ、その分節での学習が十分なされたか、また、次の展開のための準備や意欲づけが行われたかどうかを把握する。

特に注意したいのは、教師の意図した活動がなされ、あるいはなされなかった原因はどこにあるかを学級全体としてつかむと同時に、一人一人の子どもについてもはっきりさせたい。授業では、とかく教師の先入感が子どもとの接し方に現われたり、あるいは、元気のよい一部の子どもの声に流され、本当に大事に、注意して扱わねばならない子どもが忘れられてしまうことがある。この点からも、この調査を通し、本当の意味で「一人一人の子ども」に目を向けるための教師自身の意識を目覚めさせたい。この調査から気づき、教えられることは多いはずである。

なお、一つ一つの項目を巻末に付した柱状グラフで処理すると、一層明確な結果が出るであろう。

調査できる内容

項目番号 調査内容	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
学習内容に関する内容	○	○			○	○			○			○			
教師の言動に関する内容			○	○	○	○	○	○	○	○				○	
指導法・技術に関する内容	○			○			○		○	○	○	○	○		
学習場面の雰囲気に関する内容	○	○			○		○			○	○				○

意識調査 3-1 視聴中の児童の意識調査

___年___組___番 男・女

名前_____

いま、あなたはどんな気持ちでこの番組を見ていますか。①から⑩までについて自分の気持ちに一番近い番号に○をうちなさい。

- (例) かたくなるしい

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

 うちとけた
- ① したしみにくい

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

 したしみやすい
- ② むちゅうになれなかった

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

 むちゅうで見ていた
- ③ ないようがわるい

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

 ないようがよい
- ④ むずかしい

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

 やさしい
- ⑤ いらいらする

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

 おちついていられる
- ⑥ あれでいい

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

 わたしならこうする
- ⑦ ふしぎではない

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

 どうしてだろう
- ⑧ なるほどわかった

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

 ほんとうかな。家で調べてみようかな
- ⑨ なるようになる

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

 あれからどうなるのだろう
- ⑩ 見ていてたのしいが、あまり考えては見ない

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

 このテレビでいいたいことがよくわかる

意識調査 3-2 学習の中途での意識調査

___年 ___組 ___番 男・女

名前 _____

あなたは、今、どんな気持ちで勉強していますか。〈きれい〉にならって、あなたの気持ちに近い番号を○でかこみなさい。

- | | | | |
|-------|-------------|-----------|-------------|
| 〈きれい〉 | かたくなるしい | 1 2 3 ④ 5 | したしみやすい |
| ① | したしみにくい | 1 2 3 4 5 | したしみやすい |
| ② | むずかしい | 1 2 3 4 5 | やさしい |
| ③ | ふこうへい | 1 2 3 4 5 | こうへい |
| ④ | かたい | 1 2 3 4 5 | やわらかい |
| ⑤ | やることがわからない | 1 2 3 4 5 | やることがわかった |
| ⑥ | ぼんやりした | 1 2 3 4 5 | すっきりした |
| ⑦ | いらいらする | 1 2 3 4 5 | ゆったりした |
| ⑧ | かたくなるしい | 1 2 3 4 5 | うちとけた |
| ⑨ | たいくつ | 1 2 3 4 5 | はりがある |
| ⑩ | ふじゆう | 1 2 3 4 5 | じゆう |
| ⑪ | つまらない | 1 2 3 4 5 | おもしろい |
| ⑫ | ものたりない | 1 2 3 4 5 | これでいい |
| ⑬ | いそがしい | 1 2 3 4 5 | おちついた |
| ⑭ | 先生にやってもらいたい | 1 2 3 4 5 | 自分でやりたい |
| ⑮ | おわりたくない | 1 2 3 4 5 | はやくつづきがやりたい |

意識調査 4-1 視聴直後の意識調査

視聴直後、子どもたちはどんな意識で見終わったかを調べるものである。何となく見過ごしてしまったのか、何かもやもやしていたものがすっきりし見通しがもてたか、更に新しい問題をつかんだのか、あるいは、好感をもって見終わったのかなど、番組の内容と子どもの視聴能力によって異なってくる。この視聴後の意識を的確につかむことは、効果的な学習の成立をめざす手だてを講ずるためのかぎを手に入れたことになる。

4-2 一分節を終えた後の意識調査

授業には節がある。その節によって、学習が深まる。一分節ごとの、子どもの意識の変化を同一内容で捉えようとするのがこの調査である。意識調査8が、初めの一節を想定しているのに対し、この調査は、はじめ・中・終わりのどの分節でも調査できるよう配慮した。従って、この調査は、1時間の授業に大きな分節が3つあったとする。そのうちいずれか2つの分節の境目で、この調査を行えば、第1回の意識がどのような学習活動により、どう変わったかが探れる。

この調査の処理法は、60ページの「イメージの変化」に述べてある。その方法で、集計、処理し、2つの分節の間の学習展開を具体的に思い起こし、変化の要因を探ればよい。

その場合、指導法とのかかわりが多いときは、いわゆる「練結び方式」による調査を合わせ行っておくと、その要因を一層はっきりさせることができる。

そういった観点で、教師が意識調査から気づいた問題点に対し、何等かの具体的な対策を講じたときに、一層鮮明にイメージ変化が生じるはずである。

調査できる内容

項目番号 調査内容	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
学習内容に関する内容		○		○		○	○					○			
教師の言動に関する内容		○	○					○	○	○	○		○	○	
指導法・技術に関する内容		○				○		○		○	○	○	○	○	○
学習場面の雰囲気に関する内容	○			○	○		○	○			○			○	○

意識調査 4-1 視聴後の児童の意識調査

___年 ___組 ___番 男・女

名前 _____

今の番組を見て（聞いて）、どんなことを感じましたか。例にならって、あなたの気持ちに一番近い番号に○じるしをつけなさい。

- | | | | |
|-----|-------------------------|-----------|-----------------------------|
| (例) | かたくるしい | 1 2 3 4 5 | うちとけている |
| ① | いらいらしながら見た | 1 2 3 4 5 | おちついて見た |
| ② | だんだんわからなくなった | 1 2 3 4 5 | だんだんはっきりしてきた |
| ③ | もやもやした | 1 2 3 4 5 | すっきりした |
| ④ | はじめからよくわからなかった | 1 2 3 4 5 | はじめからよくわかった |
| ⑤ | はじめはよくわかったがだんだんわからなくなった | 1 2 3 4 5 | はじめはよくわからなかったがだんだんはっきりした |
| ⑥ | この番組は二度と見たくない | 1 2 3 4 5 | もういちどじっくり見たい |
| ⑦ | テレビで見た（ラジオで聞いた）とおりだと思ふ | 1 2 3 4 5 | 自分でもしらべてみたくなった |
| ⑧ | こんなふうになるとは思わなかった | 1 2 3 4 5 | 前に考えていたとおりになってうれしい |
| ⑨ | うまくすじがあうようにできているなあとと思った | 1 2 3 4 5 | どうもよくわからないところがあった |
| ⑩ | 見るだけで、あとの話し合いはないほうがいい | 1 2 3 4 5 | あとで、あのぼめんのことを話し合ってみようと思った |
| ⑪ | 話し合いはいいが、書くことはない方がよい | 1 2 3 4 5 | ノートに書くと、番組のことがはっきり頭にのこるからよい |

意識調査 4-2 1分節を終えた後の意識調査

___年 ___組 ___番 男・女

名前 _____

これから次の学習にうつりますが、今の学習であなたはどんなことを感じて
いますか。<くれい>にならって、あなたの気持ちに近い番号に○をうちなさい。

- | | | | |
|-------|------------------|-------------------|------------------|
| <くれい> | かたくるしい | 1 2 3 ④ 5 | うちとけた |
| ① | いらいらする | 1 2 3 4 5 | おちついていられる |
| ② | むずかしい | 1 2 3 4 5 | やさしい |
| ③ | せつめいがかたい | 1 2 3 4 5 | せつめいがやわらか |
| ④ | しょんぼり | 1 2 3 4 5 | いきいき |
| ⑤ | これからどうするの
かな | 1 2 3 4 5 | やることがよくわかつ
た |
| ⑥ | だんだんもやもやして
きた | 1 2 3 4 5 | だんだんはっきりして
きた |
| ⑦ | つまらない | 1 2 3 4 5 | おもしろい |
| ⑧ | だらだらした | 1 2 3 4 5 | ぴりっとした |
| ⑨ | ふこうへいな | 1 2 3 4 5 | こうへいな |
| ⑩ | せつめいが少ない | 1 2 3 4 5 | せつめいが多い |
| ⑪ | かたくるしい | 1 2 3 4 5 | のびのびした |
| ⑫ | もう、やめたい | 1 2 3 4 5 | つづきがはやくやりた
い |
| ⑬ | わかりにくい | 1 2 3 4 5 | わかりやすい |
| ⑭ | 先生がやった方がいい | 1 2 3 4 5 | じぶんたちでやりたい |
| ⑮ | たいくつ | 1 2 3 4 5 | もっとやりたい |

意識調査 5-1 視聴後、授業の途中における意識調査

テレビを見せた後、視聴後の学習が始まる。その学習は、番組の内容、子どもの視聴の実態、指導の意図によって手だてが考慮されなければならない。その手だては学習の成立の成否のかぎとなる。また、それは、子どもの反応によって変えていかねばならない。そこで、子どもたちが教師の手だてをどんな意識で受けとめているか調査し、より適切な手だてを講じることが大切となる。

5-2 深める段階での意識調査

学習が進展するに従い、内容がむずかしくなったり、作業などで騒然とする場合もでてくる。内容を重視すれば教師の出番が多くなり、騒然とした中では、意味ある学習は成立しない。その授業の内容や学習活動のさせ方、あるいは展開の速さやすじ道に対して、子どもたちがどんな意識で活動しているかを調べようとするのがこの調査である。

特に、学習内容が高度になると一部の子どもしか活動できない。しかし、一部の子どもしか活動できなくても、他の子どもたちが意欲的に学習に参加していれば、あまり不満はないはずである。また、逆に、不満さえ持てないほど、至極当然の成りゆきとして受け止めているのかもしれない。そうした場合に、学習の目標が達成でき、しかも、子どもが満足する方向をさぐらなければならない。また、教師の言動や技術も大きな要因となっていることを意識したい。

この調査では、一時間の学習が深まっていく一コマの場面で、今学習していることについての意識調査であるから、これ自体にも大きな意味があると同時に、1～8の調査と重ねて比較するとよい。それぞれの共通の項目、あるいは、似通った項目、いずれでもよい。子どもたちは、同じイメージで続いているのか、あるいは変化しているのかがつかめる。

調査できる内容

項目番号 調査内容	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
学習内容に関する内容	○	○			○						○				○
教師の言動に関する内容			○		○		○			○		○	○		
指導法・技術に関する内容	○					○		○		○		○		○	○
学習場面の雰囲気に関する内容	○	○		○		○	○	○	○			○	○	○	

意識調査 5-1 視聴後の話し合い学習の途中での児童の意識調査

___年___組___番 男・女

名前 _____

今、あなたはどんなきもちでべんきょうしていますか。例にならって、あなたのきもちにいちばんちかいばんごうに○じるしをつけなさい。

- | | | | |
|-----|--|-----------|--|
| (例) | かたくるしい | 1 2 3 4 5 | うちとけている |
| ① | なにかいらいらしている | 1 2 3 4 5 | おちついている |
| ② | いやだな | 1 2 3 4 5 | 楽しいな |
| ③ | いまべんきょうしている
ことがよくわからない | 1 2 3 4 5 | とてもよくわかる |
| ④ | さっき見た番組と、今べんきょうしていることがつながらない | 1 2 3 4 5 | さっきみた番組のことが、
よけいはっきりしてきた |
| ⑤ | わたしがべんきょうしたいこととちがっている | 1 2 3 4 5 | わたしがべんきょうしたい
ことにぴったりあっている |
| ⑥ | 視聴ノートを書くのがめんどうだ | 1 2 3 4 5 | 視聴ノートに書いていくと
よくわかるし、あとのべんきょうにやくだつからよい |
| ⑦ | テレビを見たり、ラジオをきいたりするのはいいが、あとのべんきょうはいやだ | 1 2 3 4 5 | 見たことや聞いたことをもとにしてべんきょうするとよくわかる |
| ⑧ | テレビをみた(ラジオをきいた)あとのべんきょうには、今とちがうしかたがあると思う | 1 2 3 4 5 | テレビをみた(ラジオをきいた)あとのべんきょうのしかたは、今のようでいい |
| ⑨ | このままやっても、今はなしあっていることは、かいつできないだろう | 1 2 3 4 5 | いまやっていることはかいつできそうだ |
| ⑩ | はやくこの勉強が終わらないかな | 1 2 3 4 5 | もっとほかのことについて
も考えてみたい |

意識調査 5-2 深める段階での意識調査

___年 ___組 ___番 男・女

名前 _____

あなたは、いま、どんな気持ちで勉強していますか。〈れい〉にならって、あなたの気持ちに近い番号を○でかこみなさい。

〈れい〉 かたくなるしい 1 2 3 ④ 5 うちとけている

- | | | |
|--------------|------------------|-----------|
| ① つまらない | <u>1 2 3 4 5</u> | すてきだ |
| ② どうしてかな | <u>1 2 3 4 5</u> | よくわかった |
| ③ きびしい | <u>1 2 3 4 5</u> | やさしい |
| ④ さびしい | <u>1 2 3 4 5</u> | にぎやか |
| ⑤ 暗い | <u>1 2 3 4 5</u> | 明るい |
| ⑥ いらいらしている | <u>1 2 3 4 5</u> | おちついている |
| ⑦ めあてにそっていない | <u>1 2 3 4 5</u> | めあてにそっている |
| ⑧ ぼんやりしている | <u>1 2 3 4 5</u> | ぴりっとしている |
| ⑨ めんどうだ | <u>1 2 3 4 5</u> | やりがいがある |
| ⑩ ごつごつしている | <u>1 2 3 4 5</u> | なめらかである |
| ⑪ きらい | <u>1 2 3 4 5</u> | すき |
| ⑫ わかりにくい | <u>1 2 3 4 5</u> | わかりやすい |
| ⑬ ふこうへい | <u>1 2 3 4 5</u> | こうへい |
| ⑭ ざわざわしている | <u>1 2 3 4 5</u> | いきいきしている |
| ⑮ ぴったりしない | <u>1 2 3 4 5</u> | ぴったりしている |

意識調査 6-1 授業終了直後の意識調査

テレビを見て1時間の学習を終えたとき、子どもたちは、無意識的に学習を評価しているものである。このときの意識を調査し、その学習における手だての見通しと次のテレビを見ての学習の手だて決定のもととしたい。また、この調査をすることによって、それまで無意識的に評価していたものをより意識化することによって、子どもの主体的な学習への参加を期待するものである。

6-2 1時間終了後の意識調査

1つの内容を、主体的な取り組みをさせる中で得させようとするのが1時間の授業である。指導内容、目標の具体化はできたか、展開の仕方は？指導の仕方は？と問っていくと、教師自身が自覚できるものが多い。しかし、それも教師側の一方的な認識である。

そこで、教師の1時間の授業に対する取り組み（その授業の中だけでとらえないで、授業以前も含める。）や、その授業に対する教師自身の評価と相まって、子どもの側からも良い評価が得られたとき、本当の意味で学習が成立したといえる。その意味から言って、この調査に表われた反応は、授業に対する厳粛な一つの判定ととらえなければならない。

教師の努力や配慮、指導がどのようなイメージを持たせたか。学習の主体者である子どもはどう受けとめたか。そこに、「学習の成立」の最後の扉がある。ここでも、学級の傾向から指導法の改善へつなげる鍵が得られる。それと同時に、一人一人の子どもはどうであったかをはっきりさせることが大切となる。その一人をもゆるがせにしない指導法こそ、「学習の成立」の最も大きな条件である。

従って、クラスの状態、個人の状態、さらには、線結び方式による指導法の改善のための調査とを重ねて検討するならば一層有効な道しるべが得られる。

調査できる内容

項目番号 調査内容	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
学習内容に関する内容		○		○						○		○			○
教師の言動に関する内容			○			○		○						○	
指導法・技術に関する内容	○			○			○		○	○		○	○	○	
学習場面の雰囲気に関する内容	○				○	○				○	○	○			○

意識調査 6-1 1時間の授業を終えたときの意識調査

___年 ___組 ___番 男・女

名前 _____

1時間のべんきょうが終わりました。今、あなたはどんな気持ちでいますか。れいにならって、番号を○でかこみなさい。

- (例) かたくるしかった

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

 らくな気持ちだった
- ① なにかいらいらして終わった

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

 おちついて勉強ができた
- ② むずかしかった

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

 やさしかった
- ③ よくわからなかった

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

 よくわかった
- ④ テレビとあとの勉強のつながりがわからなかった

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

 テレビとあとの勉強のつながりがよくわかった
- ⑤ テレビで勉強することはあまりすきではない

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

 テレビで勉強することはすきだ
- ⑥ テレビを見たあとの勉強は、先生が進めてくださった方がよい

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

 テレビを見たあとの勉強はわたしたちにまかせてもらった方がよい
- ⑦ テレビのないようについては、見るだけでよい

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

 テレビのないようにについてもっと調べたり、じっけんしたりしたい
- ⑧ このテレビはここで見るより、もう1時間前かあとに見る方がよい

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

 このテレビは、ちょうどこの時間に見てよくまとまった
- ⑨ このテレビを見て、かえって勉強をする気がしなくなった

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

 このテレビをいかしてつぎの勉強の問題ができ、やる気ができた
- ⑩ テレビの考え方やすすめ方は、わたしの考え方や勉強のし方のたすけにはならない

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

 自分たちの勉強のし方をつぎのときにはかえるとよい

意識調査 6-2 1時間終了後の意識調査

___年 ___組 ___番 男・女

名前 _____

1時間の学習を終えた今、あなたはどんな気持ちでいますか。〈れい〉にならって、あなたの気持ちに近い番号を○でかこみなさい。

〈れい〉 かたくなるしかった 1 2 3 4 5 うちとけられた

- | | | | |
|---|----------------------------|------------------|---------------------------|
| ① | なんとなく終わった | <u>1 2 3 4 5</u> | 心にのこることがあった |
| ② | むずかしかった | <u>1 2 3 4 5</u> | やさしかった |
| ③ | ふこうへい | <u>1 2 3 4 5</u> | ふこうへいだ |
| ④ | かたい | <u>1 2 3 4 5</u> | やわらかい |
| ⑤ | しょんぼりしていた | <u>1 2 3 4 5</u> | 生きいきしていた |
| ⑥ | ほっとした | <u>1 2 3 4 5</u> | もっとやりたい |
| ⑦ | めあてにむかっていなかった | <u>1 2 3 4 5</u> | めあてに向かっていた |
| ⑧ | 先生が自分ですすめて行った | <u>1 2 3 4 5</u> | 自分たちですすめた |
| ⑨ | 図・表・写真(スライド・オーバーヘッド)があるとよい | <u>1 2 3 4 5</u> | 図・表・写真(スライド・オーバーヘッド)が多すぎた |
| ⑩ | あまり考えなかった | <u>1 2 3 4 5</u> | よく考えた |
| ⑪ | かつやくできなかった | <u>1 2 3 4 5</u> | かつやくした |
| ⑫ | このつづきはやりたくない | <u>1 2 3 4 5</u> | このつづきははやくやりたい |
| ⑬ | いそがしい | <u>1 2 3 4 5</u> | ゆったりしている |
| ⑭ | くぎりがなかった | <u>1 2 3 4 5</u> | くぎりがあった |
| ⑮ | 先生がやってくださったほうがよい | <u>1 2 3 4 5</u> | もっと自分たちでやりたい |

意識調査 7-1 放送番組を利用した学習と、利用しない同じ教科の学習に対する意識調査

子どもたちは、同じ教科の学習でも、放送を利用した学習のよさを感じとっている。また、教室学習のよさも感じとっている。この両者のよさを子どもの意識調査から探り、指導内容と子どもの実態をふまえ、その接点で放送教育を仕組んだとき、生き生きとした効率高い学習が成立する。そのような学習の成立をめざしての子どもの意識を調査しようとするものである。

7-2 ふだんの学習で、一分節を終えた時の意識調査

同じような一分節終了後の調査があるが、意識調査 8・4 が特に得意な教科を対象とした授業を想定しているのに対し、この調査は、どの授業でもと広い範囲を想定している。

一つにひいてるものは他でも・・・とよく言われる。そこで、特定の授業ばかりでなく、自分が行っている他の授業の反応も知る必要がある。専門外はわからないと言わないで、そこでも子どもがよくわかり、よろこびのもてる授業を営むことが肝要である。

この調査により、一層「学習の成立」という観点から自分の授業全般に目を向けていきたいものである。教師にとって専門教科はあっても、子どもにとっては専門はないからである。

この調査で特に留意したのは、子どもの学習への参加に関わる内容である。学習への参加意欲は、指導内容や、教師の言動、指導法や技術、あるいは、子ども自身の興味・関心等と複雑に絡み合っているものである。だからといって、学習への参加意欲に関わる要因を明らかにしなかったり、専門外だからといって避けていたのでは、「学習の成立」もなければ、子どもの成長もあり得ない。何しろ、小学校では、専門外の方がはるかに時間数が多いからである。すべての学習がうまくいってこそ、子どもは育つのである。

調査できる内容

項目番号 調査内容	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
学習内容に関する内容	○	○		○			○			○					
教師の言動に関する内容	○		○	○		○		○							○
指導法・技術に関する内容		○		○			○	○	○			○	○	○	
学習場面の雰囲気に関する内容	○	○	○		○	○	○			○	○		○		○

意識調査 7-1 放送番組を利用した学習と利用しない同じ教科の
学習に対する意識調査

___年 ___組 ___番 男・女

名前 _____

放送をとり入れた勉強とくらべ、放送をとり入れない勉強をしている今、あなたはどんな気持ちですか。(れい) にならって番号を○でかこみなさい。

- | | | | |
|------|---|-----------|--|
| (れい) | かたくるしい | 1 2 3 4 5 | うちとけられる |
| ① | 放送をとり入れない勉強
はおもしろくない | 1 2 3 4 5 | おもしろい |
| ② | 放送をとり入れない勉強
はよくわからない | 1 2 3 4 5 | よくわかる |
| ③ | 時間がゆったりしている
が、むだになる | 1 2 3 4 5 | 時間がゆったりしていて、
ゆっくり勉強ができる |
| ④ | 友だちどうして話し合い
をしていると時間がむだに
なる | 1 2 3 4 5 | 友だちどうして話し合うと
よくわかる |
| ⑤ | 先生がかってにすすめな
さるのでわかりにくい | 1 2 3 4 5 | 先生がていねいにすすめて
くださるのでよくわかる |
| ⑥ | テレビで勉強したことは
ほかの勉強にはやくにたた
ない | 1 2 3 4 5 | テレビで勉強したことをほ
かの勉強にもやくだてるよう
にしている |
| ⑦ | いつもテレビでばかり勉
強すると、あまり考えない
ようになる | 1 2 3 4 5 | テレビで勉強すると、よく
考えるようになる |
| ⑧ | テレビを使わない勉強の
時、テレビのないところで
勉強した方がよい | 1 2 3 4 5 | 一ぶぶんでもいいから、テ
レビを見てから勉強したい |
| ⑨ | スライドやオーバーヘッ
ド、しゃしんを使うと勉強
しにくい | 1 2 3 4 5 | スライドやオーバーヘッド
など、何かを使って勉強した
い |
| ⑩ | テレビを使う勉強は、使
わない勉強のし方とはぜん
ぜんちがう | 1 2 3 4 5 | テレビを使わない勉強でも
勉強のし方にはている |

意識調査 7-2 ふだんの学習で、1分節を終えたときの意識調査

___年___組___番 男・女

名前_____

あなたはどんな気持ちですか。<例>にならって、あなたの気持ちに近い番号に○をうちなさい。

<例> かたくなるしい 1 2 3 ④ 5 うちとけている

- | | | |
|----------------|-----------|--------------|
| ① 暗い | 1 2 3 4 5 | 明るい |
| ② むずかしい | 1 2 3 4 5 | やさしい |
| ③ はっきりしない | 1 2 3 4 5 | はっきりしている |
| ④ おとっている | 1 2 3 4 5 | すぐれている |
| ⑤ せわしい | 1 2 3 4 5 | ゆったりしている |
| ⑥ 古い | 1 2 3 4 5 | 新しい |
| ⑦ わかりにくい | 1 2 3 4 5 | よくわかる |
| ⑧ やってほしくない | 1 2 3 4 5 | もっとやってほしい |
| ⑨ 考えようとしなかった | 1 2 3 4 5 | よく考えた |
| ⑩ じゃまになった | 1 2 3 4 5 | やくにたった |
| ⑪ したしみにくい | 1 2 3 4 5 | したしみやすい |
| ⑫ この勉強には興味がない | 1 2 3 4 5 | もっと知りたい |
| ⑬ もっと工夫してほしい | 1 2 3 4 5 | よく工夫してある |
| ⑭ じっとしていてつまらない | 1 2 3 4 5 | 自分でやれて満足 |
| ⑮ 勉強の仕方がわからない | 1 2 3 4 5 | 勉強の仕方がよくわかった |

意識調査 8-1 放送番組を利用していない教科学習についての意識調査

子どもたちは、放送番組利用教科の学習を期待しているのか、それとも、利用しない教科を期待しているのかという意識を探ってみようとするものである。その意識の中から、子どもたちが何を求め、何を満たそうとしているのかを探ることにより、他教科へも生かしていこうとするための調査である。

8-2 ○○を利用した学習に対する意識調査

学習は話し合いだけで成立するものではない。情報の受け止め、分析、解釈、発展等、学習は、複雑な展開の中で成立する。

教師は、それらの活動を効率よく進めるために、さまざまな手法を用いる。掛図、8ミリ、スライド、OHPなどによる資料提示。文章化、動作化、絵画化による表現。学習形態では、個人、グループ、学級全体で。こうした新しい試みを取り入れたとき、子どもたちは、ふだんと異った意識を持つ。そして、回を重ねるうちに、特別な意識を持たなくなる。

そこで、新しい(あるいは、特に工夫した)○○を取り入れたとき、それが子どもの学習にどのような影響を与えたかを捉えようとするのがこの調査である。

この調査により、○○を利用した時のイメージを明確にし、その授業の、その過程においては、適当かどうか、あるいは、改善したり、訓練を要するところはどこかをはっきりさせ、一層有効な手だてとして生かしていく資料とする。

この調査も、同じ○○を取り入れた授業を続ける場合、子どもの意識が回を重ねるに従ってどう変わっていったかを捉えるとよい。それには、4の処理法「イメージの変化」を参照するとよい。

調査できる内容

項目番号 調査内容	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
学習内容に関する内容	○	○					○				○	○			○
教師の言動に関する内容	○		○	○		○	○								
指導法・技術に関する内容	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
学習場面の雰囲気に関する内容	○		○		○		○	○		○	○	○		○	○

意識調査 8 1 放送番組を利用していない教科についての意識調査

年 組 番 男・女
名前 _____

放送を使っていない勉強について、あなたはどんな気持ちをもっていますか。
(れい) にならって番号を○でかこみなさい。

(れい) かたくなるしい 1 2 3 ④ 5 うちとけられる

- ① 放送を使ってない勉強に 1 2 3 4 5 きょうみがある
きょうみがない
- ② 放送を使っていない勉強 1 2 3 4 5 よくわかる
はよくわからない
- ③ 時間はゆったりしている 1 2 3 4 5 時間がゆったりしていて
がむだ使いになる ゆっくりできる
- ④ テレビにたよるのはよく 1 2 3 4 5 テレビから勉強することはたくさんあるから使って
ない 勉強したい
- ⑤ テレビばかり見ていると 1 2 3 4 5 テレビを見ていると、り
ばかになるみたいだから見 こうになるみたいに思うの
ないで勉強した方がよい でテレビを見て勉強したい
- ⑥ テレビを見たからといっ 1 2 3 4 5 テレビを見ると勉強のし
て考え方や勉強のし方がわ 方や考え方がわかる
かるものではない
- ⑦ テレビを見てもスライド 1 2 3 4 5 テレビを見なくてもよい
を見ても勉強のし方には変 からスライドを使って勉強
わりがないと思う したい
- ⑧ テレビで勉強するのはよ 1 2 3 4 5 できないかもくをテレビ
くないと思う で勉強したい
- ⑨ テレビを使うと先生がら 1 2 3 4 5 テレビを使うと先生も勉
くなさるだけでよくない 強になって教え方がうまく
なられる

意識調査 8-2 ○○を利用した学習に対する意識調査

___年 ___組 ___番 男・女

名前 _____

○○を利用した学習をしている今、あなたは、どんな気持ちでいますか。
 <きれい>にならって、あなたの気持ちに近い番号に○をうちなさい。

- | | | | |
|----------------|---------|-----------|--------------|
| <きれい> | かたくなるしい | 1 2 3 4 5 | うちとけている |
| ① 暗い | | 1 2 3 4 5 | 明るい |
| ② むずかしい | | 1 2 3 4 5 | やさしい |
| ③ はっきりしない | | 1 2 3 4 5 | はっきりしている |
| ④ おとっている | | 1 2 3 4 5 | すぐれている |
| ⑤ せわしい | | 1 2 3 4 5 | ゆったりしている |
| ⑥ 古い | | 1 2 3 4 5 | 新しい |
| ⑦ わかりにくい | | 1 2 3 4 5 | よくわかる |
| ⑧ もう、やめてほしい | | 1 2 3 4 5 | もっとやってほしい |
| ⑨ じゃまになる | | 1 2 3 4 5 | 役にたった |
| ⑩ したしみにくい | | 1 2 3 4 5 | したしみやすい |
| ⑪ 考えようとしなかった | | 1 2 3 4 5 | よく考えた |
| ⑫ この勉強には興味がない | | 1 2 3 4 5 | もっと知りたい |
| ⑬ もっと工夫してほしい | | 1 2 3 4 5 | よく工夫してある |
| ⑭ じっとしていてつまらない | | 1 2 3 4 5 | 自分でやりたい |
| ⑮ 勉強の仕方がわからない | | 1 2 3 4 5 | 勉強の仕方がよくわかった |

意識調査 9-1 放送そのものに対する心情調査

子どもたちは、自分を取りまく環境やその内容によって感情を変化させるものである。そして、その感情は、学習に立ちむかう子どもの意識に、積極的に、あるいは、消極的に作用するものである。子どもたちは、学習環境が変化することによって、精神的な動揺を伴う。放送が、あるいは、放送の内容が、子どもたちの心情にどうはたらきかけているかをとらえることは大切である。子どもたちは、暖い心、豊かな人間性をもった人間に育てられなければならない。そのためには、常によい学習環境が設定されなければならない。

この調査は、放送に限らず、子どもの第一感を調査し、学習の場の設定の手だてとするものである。

9-2 学習環境に対する意識調査

学習環境といっても物的、人的なものが考えられるが、ここでは、主として、人的環境に視点をあてた。従って、この調査に際しては、その意図を被調査者に知らせたい。例えば、「今の話し合いについて・・・」とか、「今のグループ学習について・・・」など。

その意図は、「学習を成立」させるための子どもの学習参加意欲と深い関わりがあるからである。また、一見華やかな学習様相を程する中にも、学習の目標とかかわりのない現象も現われるからである。

そこで肝要となるのは、教師の観察や客観テスト、あるいは、製作物(ノートも含む)などと対比するなかで反応を分析し、対策を講じることである。さらに、この内容に関わっては、しつけや訓練面がかなり大きな比重を占めていることにも注意すべきである。

調査できる内容

項目番号 調査内容	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
学習内容に関する内容	○			○	○			○		○					
教師の言動に関する内容	○		○	○	○	○	○	○	○		○		○		○
指導法・技術に関する内容	○	○	○	○	○				○	○	○			○	
学習意欲に関する内容	○	○				○	○	○	○	○	○			○	
学習場面の雰囲気に関する内容		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○

意識調査 9-1 放送そのものに対する心情調査

___年 ___組 ___番 男・女

名前 _____

今、この番組をどんな気持ちで見えていますか。(れい) にならって番号を○でかこみなさい。

- | (れい) | 大きい | 1 2 3 4 5 | 小さい |
|------|-------------|-----------|-------------|
| ① | くだらない | 1 2 3 4 5 | おもしろい |
| ② | かawaii感じがする | 1 2 3 4 5 | うちとけた感じがする |
| ③ | かっこうだけだ | 1 2 3 4 5 | いいことがいっぱいある |
| ④ | おとっている | 1 2 3 4 5 | すぐれている |
| ⑤ | にぎやかな感じがする | 1 2 3 4 5 | しずかな感じがする |
| ⑥ | かたい感じがする | 1 2 3 4 5 | やわらかい感じがする |
| ⑦ | くらい感じがする | 1 2 3 4 5 | 明るい感じがする |
| ⑧ | とっつきにくい | 1 2 3 4 5 | とっつきやすい |
| ⑨ | わるい | 1 2 3 4 5 | よい |

____年 ____組 ____番 男・女

名前 _____

今、あなたはどんな気持ちで学習していますか。<れい>にならって、あなたの気持ちに近い番号を○で囲みなさい。

- | <れい> | 大きい | 1 2 3 ④ 5 | 小さい |
|-------------|-----|-------------------|------------|
| ① くだらない | | 1 2 3 4 5 | いみがある |
| ② かよわい | | 1 2 3 4 5 | 力づよい |
| ③ 上べだけの | | 1 2 3 4 5 | 深みがある |
| ④ おとっている | | 1 2 3 4 5 | すぐれている |
| ⑤ わかりにくい | | 1 2 3 4 5 | よくわかる |
| ⑥ 自分かって | | 1 2 3 4 5 | みんなのことを考えて |
| ⑦ 早い | | 1 2 3 4 5 | おそい |
| ⑧ とっつきにくい | | 1 2 3 4 5 | したしみやすい |
| ⑨ つまらない | | 1 2 3 4 5 | たのしい |
| ⑩ 長いかんじ | | 1 2 3 4 5 | みじかい感じ |
| ⑪ いらいらする | | 1 2 3 4 5 | おちついていられる |
| ⑫ さわがしい | | 1 2 3 4 5 | 静か |
| ⑬ 説明が多すぎる | | 1 2 3 4 5 | 説明は、ちょうどいい |
| ⑭ あまり考えられない | | 1 2 3 4 5 | よく考えられる |
| ⑮ きゅうくつ | | 1 2 3 4 5 | のびのびしている |

意識調査 10-1 視聴能力調査

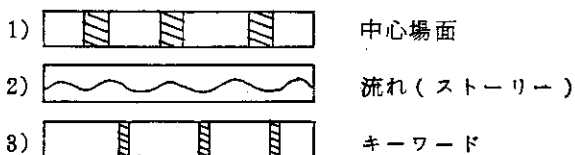
放送をとり入れた学習をすすめるとき問題となるのは、子どもたちが放送の内容をどの程度受容しているかである。放送によって提供される情報は非常に多いが、送り手は、受け手に対して、とらえてほしい情報に筋道を立て、場面をつくり、言葉で補説し、音楽などの効果を取り入れながら構成し提供している。このような多様で複雑な情報の中から、今、放送教材をとりこみ、学習として成立させるとき、子どもたちに、放送のどんな情報をとらえさせなければならないかを考える必要がでてくる。

そこで、放送番組として15分～20分で構成されている内容を、受け手である子どもが、自分なりにどう分析し、要素としてとらえる能力を身につけているかを探る必要がでてくる。その能力を視聴能力とするとき考えられるものが下記に示すものである。

番組みを構成する要素

補うための複要素

- | | | |
|----------------|-------|-----------------|
| 1. 中心場面 | ————— | 周辺場面 |
| 2. 流れ(ストーリー) | ————— | ハブニング(諸事件) |
| 3. キーワード(コメント) | ————— | 背景(バックミュージック)音声 |



中心場面、流れ、キーワードの3つをとらえるとき、改めて、子どもは自分自身で再構成し、その放送の価値を把握すると考えられる。これらの3つの要素をとらえる力を、子どもひとりひとりについて、つかんでおく必要がある。そして、その実態を知ったとき、それらの能力を育てるための適切な手だてが施されなければならない。

調査できる内容

項目番号 調査内容	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
学習内容に関する内容	○				○					○		○		○	
教師の言動に関する内容			○		○	○				○					○
指導法・技術に関する内容	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
学習場面の雰囲気に関する内容		○		○		○	○		○	○	○		○		○

意識調査 10-1 視聴力調査

___年___組___番 男・女

名前 _____

いま見た（聞いた）番組について、どんなことが頭に残っていますか。
 (れい) にならって番号を○でかこんだり、 の中に書いたりしなさい。

- (れい) かたくるしい 1 2 3 4 5 うちとけている
- ① いらいらしながら見た 1 2 3 4 5 いっしょうけんめい見た
- ② ほうそうとちがうことを
考えながら見た 1 2 3 4 5 どうなるのか考えながら見た
- ③ どういうことかよくわからないことばがあった 1 2 3 4 5 あたらしいことばがでたがそのいみがよくわかった
- ④ どうしてあんなことをやったのかわからない 1 2 3 4 5 やったことがとてもよくわかった
- ⑤ とちゅうから、なんだかわからなくなった 1 2 3 4 5 とてもよくわかったし、じょうずにできた番組だなと思った
- ⑥ 1番心にのこったのは である。
- ⑦ 2番目に心にのこったのは である。
- ⑧ この番組でだいじな言葉は と、
である。
- ⑨ この番組を見て（聞いて）いて のことを思い出した。

意識調査 10-2 活用した資料に対する意識調査

___年 ___組 ___番 男・女

名前 _____

今、学習にとり入れた○○について、どう思いますか。〈れい〉にならっ自分の気持ちに近い番号を○で囲みなさい。

- | | | | |
|------|-------------|------------------|-----------|
| 〈れい〉 | かたくるしい | <u>1</u> 2 3 4 5 | うちとけている |
| ① | かたい | 1 <u>2</u> 3 4 5 | やわらかい |
| ② | たいくつ | 1 2 <u>3</u> 4 5 | 心をひかれる |
| ③ | 暗い | 1 2 3 <u>4</u> 5 | 明るい |
| ④ | ぼんやりした | 1 2 3 4 <u>5</u> | はっきりした |
| ⑤ | ごちゃごちゃした | 1 2 3 4 <u>5</u> | すっきりした |
| ⑥ | いらいらした | 1 2 3 4 <u>5</u> | おちついていられる |
| ⑦ | 見にくい | 1 2 3 4 <u>5</u> | 見やすい |
| ⑧ | 小さい | 1 2 3 4 <u>5</u> | 大きい |
| ⑨ | さわがしい | 1 2 3 4 <u>5</u> | 静か |
| ⑩ | あまり考えられなかった | 1 2 3 4 <u>5</u> | よく考えられた |
| ⑪ | つかれた | 1 2 3 4 <u>5</u> | つかれなかった |
| ⑫ | 心にのこらない | 1 2 3 4 <u>5</u> | 心に残った |
| ⑬ | わからなくなった | 1 2 3 4 <u>5</u> | よくわかった |
| ⑭ | 少なすぎる | 1 2 3 4 <u>5</u> | 多すぎる |
| ⑮ | 早い | 1 2 3 4 <u>5</u> | おそい |

意識調査 11-1 視聴ノートの実態調査

放送教材の特徴は、目で見たこと、耳で聞いたことが、子どもたちひとりひとりの能力に応じてイメージとしてしか捉えられないことである。また、映像や音声は瞬時にして消えてしまうため、その瞬間瞬間において共感したこと、考えたこと、判断したことがイメージとして残っていく。このひとりひとりが様々に捉えたイメージを基底にして授業を仕組むところに、放送をとり入れた授業の特徴があり、むずかしさがある。

そこで、教師は、学習として成立させるために共通要素を固定し明確にしていかなければならない。その上に、ひとりひとりの能力によって捉えた内容を関連づけ深化すればよいのである。その固定の仕方の一つとして多く用いられるのが視聴ノートである。

視聴ノートに記録される内容は、子どもの視聴能力とそれを表現する書く力に関係してくる。視聴能力も視聴ノートも、子どもの実態を的確に把握し、それをふまえた意図的、計画的な指導がない限り育たないものである。

これらの考えから、視聴ノートの実態を捉えようとするのがこの調査である。これは、子どもが自己評価するという立場で作られているが、教師が子どものノートを点検しながら評価してもよいし、事前に調査し、次の授業での教師の期待値として活用してもよい。

11-2 ノートに対する意識調査

書くことは考えることである。自らの力で創り出す、極めて主体的な行為である。従って、学習活動の中で、国語科は勿論のこと、他の教科や領域でも大切にしたい活動である。また、書き方や書く内容ともかわり、ことによると、子どもに嫌われる行為でもある。

その重要さとむずかしさの接点をさぐり、その面での向上や、指導の手がかりをつかもうとしたのがこの調査である。子どものノートと比べながら、反応を分析・検討したい。

調査できる内容

項目番号 調査内容	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
日常の訓練に関する内容	○			○			○			○		○
書く中味に関する内容		○	○	○			○	○			○	○
書く時間に関する内容					○	○			○	○		○
書く意味に関する内容						○	○	○			○	○

意識調査 11-1 視聴ノートの実態調査

___年___組___番 男・女

名前_____

自分の視聴ノートを見ながら、(れい) にならって番号を○でかこみなさい。

(れい) かたくるしい 1 2 3 4 5 うちとけている

- ① いやいや書いた 1 2 3 4 5 気持ちよく書いた
- ② まとめるのにくろうした 1 2 3 4 5 すらすらとうまくまとめられた
- ③ 少ししか書けなかった 1 2 3 4 5 書くりょうはこれでいい
- ④ 長い文で書いた 1 2 3 4 5 かじょう書きのように、まとめて書いた
- ⑤ キーワード

 のことばが使いえなかった 1 2 3 4 5 全部かけた
- ⑥ ほうそうのじゅんにかいた 1 2 3 4 5 わかったことをまとめて書いた
- ⑦ 大事なばめんやじっけん
と
が書けていない 1 2 3 4 5 全部かけた
- ⑧ 凶・絵・やじるしなどが使って書けていない 1 2 3 4 5 凶・絵・やじるしが使って書けた
- ⑨ この放送でいいたいことは、どんなことかわからない 1 2 3 4 5 この放送でいいたいことは

 だと思ふ
- ⑩ 放送で見たこと(聞いたこと)だけ書いた 1 2 3 4 5 放送で見たこと(聞いたこと)に、自分の考えも書いた

意識調査 1 1 - 2 ノート利用に対する意識調査

_____年 _____組 _____番 男・女

名前 _____

自分のノートを見ながら、<きれい>にならって番号を○で囲みなさい。

<きれい> かたくなるしい 1 2 3 ④ 5 うちとけた

- | | | |
|--------------------------------|------------------|------------------|
| ① めんどうだ | <u>1 2 3 4 5</u> | 書くことはすきだ |
| ② 書くことがない | <u>1 2 3 4 5</u> | 書くことがいっぱいある |
| ③ 書き方がわからない | <u>1 2 3 4 5</u> | 書き方はわかる |
| ④ 思いついたじゅんに書いた | <u>1 2 3 4 5</u> | 出てくるじゅんに書いた |
| ⑤ 書くのがおそい | <u>1 2 3 4 5</u> | すらすら書ける |
| ⑥ 長い文で書いた | <u>1 2 3 4 5</u> | まとめて書いた |
| ⑦ 図・絵・矢印を使って書けなかった | <u>1 2 3 4 5</u> | 図・絵・矢印を使って書いた |
| ⑧ 見た(聞いた、書いてある)ことだけ書いた | <u>1 2 3 4 5</u> | 自分の考えをいっぱい入れて書いた |
| ⑨ 時間がたりない | <u>1 2 3 4 5</u> | 時間があまった |
| ⑩ らんごつなノートになった | <u>1 2 3 4 5</u> | ていねいなノートになった |
| ⑪ 自分のノートで、もっと工夫したいことがあったら書きなさい | | |

- ⑫ ノートのとり方で、教えてほしいことがあったら書きなさい

意識調査 12-1 話し合いに対する意識調査

話し合いは、ひとりひとりの認識を表出、交流させる最も簡単な方法である。しかし、単に、表出させるだけにとどまらず、その過程において不明確な点を明らかにし、論理の再構成を図ることが大切となる。そのため、話し合いには、全員参加の機会があり、そこで話し合われる内容は、焦点化されたものであり、論理を展開させ、解決の糸口を見出せるものでなければならない。また、当然のことながら、その過程では、話し合いに参加したよろこびと同時に、学習成立のよろこびを、ひとりひとりの子どもに感得させることが大切である。

このような話し合いの成立は、教材の内容は勿論のことであるが、教師がどれほど子どもの実態を的確にとらえたか、あるいは、その実態をふまえ、いかにきめ細かな計画を持ち、適切な手だてを講じたかにかかわるところが多い。そこで、話し合いをしている最中に、また、終わった段階でどんな気持ちになっているのか知ること、次の手だてを生み出す最大のかぎであるという立場から、子どもの意識を調べようとするのがこの調査である。

12-2 話し合いに対する意識調査

「話し合い」は、共同学習において不可欠の要素である。話し合い学習が、本当の意味で成立するならば実にすばらしい成果が得られる。

ここでは、話し合いを通しての学習をより有効にするために、その場の話し合い活動に対する意識を探り、うまくいかない原因を洗い出そうとしている。

時たま、数人の子どものやりとりで終わる話し合いを見かけることがある。ここで問題となることは、話さなかった子どもたちの学習への参加ぶりである。話すことがないのか、話せないのか、話すための時間がないのか、その原因はいろいろ考えられる。また、話し合いに対する個々の子どもの受け止め方にも問題がある。そういった点について、日常の話し合い学習への参加ぶり比べながら、一人一人について反応を分析し、対策を講じたい。

調査できる内容

項目番号 調査内容	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
学習内容に関する内容	○			○		○	○		○				○		
教師の言動に関する内容	○	○		○		○						○			○
指導法・技術に関する内容	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	
時間に関する内容			○		○		○			○					
教室環境に関する内容		○			○		○	○		○	○	○	○	○	○

意識調査 12-1 話し合いに対する意識調査

___年 ___組 ___番 男・女

名前_____

今の話し合いについて、どんなことを感じていますか。(れい) にならって番号を○でかこみなさい。

(れい) かたくるしい 1 2 3 ④ 5 うちとけている

- ① いやいや話し合いをした 1 2 3 4 5 とてもたのしく話し合いができた
- ② 友だちが話し合っていることがよくわからなかった 1 2 3 4 5 友だちが話し合っていることがとてもよくわかった
- ③ 話し合う時間がみじかい 1 2 3 4 5 話し合う時間が長い
- ④ 話し合いにさんかできなかった 1 2 3 4 5 () 回、話し合いにさんかできた
- ⑤ 長くじょうずに話せない 1 2 3 4 5 すじみちをたてて話せる
- ⑥ 何を話したらよいかわからなかった 1 2 3 4 5 先生や友だちが、何をたずねているのかよくわかった
- ⑦ 考えている間に、つぎの話し合いにかわってしまった 1 2 3 4 5 同じことについての話し合いが長い
- ⑧ 問題はよくわかっているのだが、よい考えがうかばない 1 2 3 4 5 先生や友だちのヒントで、よい考えがうかんだ
- ⑨ わたしの考えや先生の出された問題について、友だちのいろいろな考えが聞きたい 1 2 3 4 5 友だちのいろいろな考えが聞け、自分の考えも発表できて楽しかった
- ⑩ 話し合いはしたけれど、さいごにどんなことがはっきりしたのかわからない 1 2 3 4 5 話し合ったら、もやもやしていたことがはっきりしたのしかった

意識調査 12-2 話し合いに対する意識調査

___年 ___組 ___番 男・女

名前 _____

今の話し合いについて、どんなことを感じていますか。<れい>にならって番号を○で囲みなさい。

- | | | | |
|------|------------------------|-----------|-------------------------|
| <れい> | かたくるしい | 1 2 3 ④ 5 | うちとけている |
| ① | かたくるしい | 1 2 3 4 5 | うちとけた |
| ② | しずか | 1 2 3 4 5 | にぎやか |
| ③ | 話し合う時間がみじかい | 1 2 3 4 5 | 長い |
| ④ | よくわからない | 1 2 3 4 5 | よくわかる |
| ⑤ | 自分も発言したい | 1 2 3 4 5 | 発言できてたのしい |
| ⑥ | 言いたいことはもうない | 1 2 3 4 5 | 言いたいことがまだある |
| ⑦ | 何を話し合ったかわからない | 1 2 3 4 5 | 話し合ったことがよくわかった |
| ⑧ | グループで話し合いたい | 1 2 3 4 5 | クラス全員で話し合いたい |
| ⑨ | むずかしい | 1 2 3 4 5 | やさしい |
| ⑩ | いそがしい | 1 2 3 4 5 | ゆったりしている |
| ⑪ | 机のむきがわるい | 1 2 3 4 5 | 机のむきはこれでよい |
| ⑫ | うまく話し合えない | 1 2 3 4 5 | うまく話し合える |
| ⑬ | 発表することがわからない | 1 2 3 4 5 | 発表することがわかる |
| ⑭ | はずかしい | 1 2 3 4 5 | はずかしくない |
| ⑮ | みんなが話をよく聞いてくれないのでつまらない | 1 2 3 4 5 | よく話を聞いてくれるのでうれしい |
| ⑯ | 不公平 | 1 2 3 4 5 | 公平 |
| ⑰ | ときどき、話をまとめてほしい | 1 2 3 4 5 | ときどき、話をまとめてもらえて、よくわかる |
| ⑱ | とちゅうで、友だちが口をはさむと話しにくい | 1 2 3 4 5 | とちゅうで、友だちが口をはさんでも苦にならない |

意識調査 13-1 行動目標（単位時間の学習目標）の達成を評価するための調査

単位時間の学習の成立は、教授＝学習の立場からみると、学習目標に到達することができたかどうかで決まる。また、学習目標に到達できたか否かは、教材を固定した場合、子どもの実態と教師の手だての相乗積によって決まる。

いま、ある教材（放送教材）があるとき、この教材に対して、「特定の子ども集団」（実態調査された）が「ある目標」に到達するための条件は、「教師の手だて」によって定まる。この関係を要約すると、次のように表わすことができる。

$$\text{学習の成立} = \text{学習目標} \times \text{子どもの実態} \times \text{教師の手だて}$$

（固定すると定数） （定数） （変数）

子どもたちは、学習の過程で教師の手だてに従って学習活動をするが、その活動のよしあしが本時の学習の成立を決定することを表わす。わたしたちは、従来、学習の成立条件を、子ども自身の意欲と能力であるとし、子どもに責任をおわせてきたが、変数と置きかえることのできる「手だて」に着目し、その持つ意味の重大さを認識しなければならない。こうした観点から、学習時における子どもの意識と成立度を調査することにより、教師自身の問題として、どう受け止め、どのような手だてを講じたらよいかを見定めていく起点を探ろうとするものである。

13-2 単位時間の目標の達成を評価するための調査

学習の成立度は、分節分節で確かめていかねばならない。しかし、それとは別に1時間の授業が成立したかどうかを、子どもの側からも評価する必要がある。むろん、この調査のみですべてを判断することは危険である。客観テストや他の意識調査、あるいは、学習への参加の様子も合わせて考えることが重要となる。

ここでは、1時間の授業で得たものと、過程での子どもの意識に焦点を当てている。

調査できる内容

項目番号 調査内容	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
学習内容に関する内容		○	○	○	○		○		○	○
教師の言動に関する内容				○						
指導法・技術に関する内容	○	○	○	○	○	○	○		○	
学習意欲に関する内容	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

意識調査 13-1 行動目標の達成度を評価するための調査

___年 ___組 ___番 男・女

名前 _____

今の勉強について、どんなことを感じていますか。(れい) にならって番号を○でかこみなさい。

(れい) かたくなるしい 1 2 3 ④ 5 うちとけている

① いやいや勉強した 1 2 3 4 5 とてもたのしく勉強できた

② この時間に何を勉強したのか、はっきりわからない 1 2 3 4 5 勉強したことがとてもよくわかった

③ 勉強することが少なすぎた 1 2 3 4 5 勉強することが多すぎた

④ わたしは、問題について考えようとしなかった 1 2 3 4 5 わたしは問題について、いっしょうけんめい考えた

⑤ 問題がやさしすぎた 1 2 3 4 5 問題がむずかしすぎた

⑥ 時間がたらなくてできなかった 1 2 3 4 5 時間がありすぎてあそんでいた

⑦ はじめからむずかしい問題がでた 1 2 3 4 5 やさしいことからじゅんに考えられた

⑧ ものや、図、しゃしんなどが無いので、よくわからなかった 1 2 3 4 5 ものや図、しゃしんなどがあったので、よくわかった

⑨ じっさいに行ってみたり調べてみたりしないので、よくわからない 1 2 3 4 5 自分で調べてみたり、行ってみたりしたので、よくわかった

⑩ きょう勉強したことを、自分のことばでまとめられなかった 1 2 3 4 5 きょうの勉強を自分(先生)のことばでまとめられた

意識調査1 3-2 行動目標（単位時間の学習目標）の達成を
評価するための調査

___年___組___番 男・女

名前_____

今の勉強について、どんなことを感じていますか。<れい>にならって、自分の気持ちに近い番号を○で囲みなさい。

- | | | | |
|------|--------------------------|------------------|-----------------------|
| <れい> | かたくなるしい | <u>1</u> 2 3 4 5 | うちとけている |
| ① | いやいや勉強した | 1 2 3 4 5 | とても楽しく勉強できた |
| ② | 何を勉強したかよくわからない | 1 2 3 4 5 | 勉強した内容がしっかりわかった |
| ③ | 勉強することが少ない | 1 2 3 4 5 | 勉強することが多い |
| ④ | あまり考えられなかった | 1 2 3 4 5 | いっしょうけんめい考えた |
| ⑤ | 問題がやさしすぎた | 1 2 3 4 5 | 問題がむずかしすぎた |
| ⑥ | 時間が足りなかった | 1 2 3 4 5 | 時間があまった |
| ⑦ | ものや図、写真がないのでわかりにくかった | 1 2 3 4 5 | 物や図、写真があったのでとてもよくわかった |
| ⑧ | 友だちはしらん顔していた | 1 2 3 4 5 | 友だちがおうえんしてくれたのでよくできた |
| ⑨ | 実際に見たりやったりしないのでよくわからなかった | 1 2 3 4 5 | 実際に見たりやったりしたのでよくわかった |
| ⑩ | きょうの勉強でわかったのは | | |

である。

意識調査 14-1 能力目標（学年として、教科として育てたい能力）の達成を評価するための調査

1時間毎の学習の積み上げが、その学年の、あるいは、その教科のねらいとする能力の育成につながっていなければならない。日々の実践が、ただ単位時間の学習の成立をめざすだけではなく、学年として、教科として必要な能力の育成をめざし、長期的な展望の上に立って行われなければならない。言いかえれば、単位時間の授業は、長期的な見通しと他教科あるいは、他領域との関連を考え、一貫した教育の中の1つの点であるという立場から手だてが講じられなければならないのである。

その立場から考えるとき、放送番組を利用した理科や社会の学習は成立しても、番組を利用しない理科の学習が成立しないとすれば、それは、本末転倒である。放送番組を利用した学習を継続することによって、番組を利用しない学習もより望ましい形で成立するようになり、また、豊かで、しかも鋭いものの方・感じ方・考え方ができ、生活の仕方にまで良い影響をもたらすことをめざすのが放送教育のねらいである。

そのためには、常に子どもの実態を把握し、めざす能力を育てるための手だてを考えていかなければならない。この調査は、それを意図したものである。

14-2 能力目標達成を評価するための調査

1時間の授業で、能力、態度とって個別に取り立すことは困難である。能力は、総合された力である。従って、能力として総合されて現われたものについては、ある程度とらえることができる。それは、行動として表われるからである。しかし、1時間の授業で行動として表われても、必ずしも1時間でつけた力とは言い難い面がある。そこで、「このごろ」という、幅広くとした範囲で、能力にかかわる意識をさぐり出そうとしたのがこの調査である。

従って、全体として見ることも大切であるが、一人一人として全体との関連でとらえたり、学習の中での反応や活動の特徴的なものと比べて検討を加える必要がある。

調査できる内容

項目番号 調査内容	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
学習への意欲・参加に関する内容	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
生活・学習の態度に関する内容			○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○
学び方に関する内容						○		○	○	○				○	○

意識調査 14-1 能力目標の達成度を評価するための調査

___年 ___組 ___番 男・女

名前 _____

放送を見たり聞いたりして勉強するようになってから、勉強の仕方や暮らし方がどのようにかわったと思いますか。(れい)にならって、番号を○でかこみなさい。

(れい) かたくなるしい 1 2 3 ④ 5 うちとけている

- | | | |
|-----------------------------------|-----------|-------------------------------------|
| ① いや気がさしてきた | 1 2 3 4 5 | とてもたのしくなった |
| ② たるんできた | 1 2 3 4 5 | はりあいができた |
| ③ あまり勉強しなくなった | 1 2 3 4 5 | すすんで勉強するようになった |
| ④ 自分でもんだいを作ることにはがてだ | 1 2 3 4 5 | 自分で問題が見つけれられるようになった |
| ⑤ いろいろ考えることは好きではない | 1 2 3 4 5 | いろいろなやり方で考えられるようになった |
| ⑥ 放送で見たり聞いたりしたことを、もう一度調べてみることはしない | 1 2 3 4 5 | 放送で勉強したことを、もっと調べたり、もう一度行ったりするようになった |
| ⑦ 放送をとり入れた勉強はたのしくない | 1 2 3 4 5 | 放送をとり入れた勉強はたのしい |
| ⑧ 放送をとり入れない勉強はたのしくない | 1 2 3 4 5 | 放送をとり入れない勉強はたのしい |
| ⑨ 自分のものは大切にし、自分だけがとくをするように考える | 1 2 3 4 5 | ものを大切にしたり、友だちや仲間を大切にしたりするようになった |
| ⑩ 放送の勉強とふつうの勉強はやり方がちがう | 1 2 3 4 5 | ふつうの勉強と放送の勉強は、やり方がにている |
| ⑪ 先生がいらっしゃらないと勉強がすずまない | 1 2 3 4 5 | 先生がいらっしゃらなくても勉強できるようになった |

意識調査 1 4 - 2 能力目標達成を評価するための調査

____年 ____組 ____番 男・女

名前 _____

このごろ、あなたは勉強のし方、生活のし方などがどのように変わったと思いますか。〈きれい〉にならって、あなたの気持ちに近い番号を○で囲みなさい。

- | | | | |
|-------|----------------------------|-----------|-----------------------------|
| 〈きれい〉 | かたくるしい | 1 2 3 ④ 5 | うちとけている |
| ① | なんだかつまらない | 1 2 3 4 5 | とても楽しい |
| ② | たるんできた | 1 2 3 4 5 | はりがでてきた |
| ③ | あまり勉強しなくなった | 1 2 3 4 5 | 進んで勉強するようになった |
| ④ | 自分で問題を見つけることは
にがてだ | 1 2 3 4 5 | 自分で問題を見つけ、とり組
めるようになった |
| ⑤ | 考えることはすきではない | 1 2 3 4 5 | 考えることは楽しいから好き |
| ⑥ | 調べる学習は好きではない | 1 2 3 4 5 | 調べる学習は好きである |
| ⑦ | 宿題がないと勉強しない | 1 2 3 4 5 | 宿題はなくても勉強する |
| ⑧ | 生活がだらだらしている | 1 2 3 4 5 | 生活にけじめがある |
| ⑨ | あまり発言はしない | 1 2 3 4 5 | どんどん発言する |
| ⑩ | グループの活動には、あまり
参加しない | 1 2 3 4 5 | 進んでグループの活動をする |
| ⑪ | ノートに書くことはあまりな
い | 1 2 3 4 5 | ノートに書くことがいっぱい
ある |
| ⑫ | ぼんやりしていて注意される
ことがある | 1 2 3 4 5 | すすんでやり、友だちにも教
えてあげる |
| ⑬ | 学習の道具などを忘れる | 1 2 3 4 5 | 学習の道具は忘れない |
| ⑭ | わからないことがあっても、
そのままにしておく | 1 2 3 4 5 | わからないことがあったら、
聞いたり調べたりする |
| ⑮ | 先生がいらっしゃらないと勉
強できない | 1 2 3 4 5 | 先生がいらっしゃらなくても
勉強できる |

意識調査 15 学校教育目標に対する意識調査

その学校における教育目標は、その学校で学んでいるひとりひとりの子どもについて、具体的な姿として具現されなければならない。そのためには、教師は、その学校におけるあらゆる教育活動を通し、意図的、計画的な指導をしなくてはならない。また、子ども自身にも、学校教育目標が、具体的な行動目標として意識され、たえず行動化しようとする実践的態度が要求される。そこで、教師は、学校教育目標具現のために設定した諸活動に対して、子どもがどんな意識で参加しているのかを調査することによって、絶えず、指導計画を反省し、新しい手だてを講じていかねばならない。

___年___組___番 男・女

名前 _____

あなたは、学校でみんなといっしょに遊んだり、仕事をしたり、勉強したりしているとき、どんな気持ちですか。あなたの気持ちに近いところに○をうちなさい。

- | | | | | |
|---|------------------------------|-------------------|-------|-------------------------------|
| | <きれい> | 1 2 3 ④ 5 | _____ | うちとけている |
| | | | | |
| ① | いやいや学校へきている | 1 2 3 4 5 | _____ | 学校へくるのがとても楽しい |
| ② | 遊びたくない友だちがいる | 1 2 3 4 5 | _____ | だれとでも遊ぶ |
| ③ | 友だちが困っていてもなんとも思わない | 1 2 3 4 5 | _____ | 友だちが困っているときは、ちゃんとたすけてあげる |
| ④ | 友だちがまちがえたり、失敗したりすると大声で笑う | 1 2 3 4 5 | _____ | 友だちがまちがえたり、失敗したりしても笑わない |
| ⑤ | 友だちがうまくやらないとおこる | 1 2 3 4 5 | _____ | 友だちがうまくやれなくてもはげましてあげる |
| ⑥ | 先生がおられないとそうじをやらないときがある | 1 2 3 4 5 | _____ | 先生がおられなくても、そうじはしっかりやる |
| ⑦ | そうじをさぼっている友だちがいても、自分だけしっかりやる | 1 2 3 4 5 | _____ | そうじをさぼっている友だちがいたら、さそっていっしょにやる |
| ⑧ | 先生の言われたことでもやらないことがある | 1 2 3 4 5 | _____ | 先生に言われたことは、ちゃんとやる |
| ⑨ | みんなで決めたことは守れない | 1 2 3 4 5 | _____ | みんなで決めたことは、かならず守る |
| ⑩ | 教室や運動場にはごみがおちていてきたない | 1 2 3 4 5 | _____ | ごみがおちているとひろうので美しい |
| ⑪ | 友だちどうし、あまりあいさつはしない | 1 2 3 4 5 | _____ | 友だちどうし、しっかりあいさつできる |
| ⑫ | 運動場などで並ぶときは、ざわざわしてうまく話が聞けない | 1 2 3 4 5 | _____ | 運動場などで並ぶときは、てきぱきとならび、静かに話が聞ける |
| ⑬ | 休み時間でも、教室にいることが多い | 1 2 3 4 5 | _____ | 休み時間には、運動場へ出て元氣よく遊ぶ |
| ⑭ | 係の仕事は、自分たちだけではできない | 1 2 3 4 5 | _____ | 係の仕事は、自分たちだけですすめていく |
| ⑮ | 下校時刻がきてもなかなか帰らない | 1 2 3 4 5 | _____ | 下校時刻までには必ず家に帰る |

3 意識調査の手順とデータ処理の仕方

(1) 二つの意識調査の持つ意味

この冊子には、二種類の意識調査を並べて採録した。一つは、「放送教育」に直接関わるものであり、もう一つは、「ふだんの授業」についてのものである。

1でも述べたように、「学習の成立」という観点から言えば、全く同じ立場であるが、教科や指導内容の特質から考え、「放送教育についての意識調査」と、その他の「ふだんの授業」とに大別した。もともと放送教育の学習の成立をめざすために開発されたものを「ふだんの授業」へ応用したものである。

従って、前者は放送教育という限られた学習を前提としているため、直接的であり、かなり焦点化されている。ところが、後者は、広い範囲の学習を想定しているため、やや焦点が定まらないむきもある。

そこで、その点の打開案として、各調査用紙の解説の終わりに、「調査できる内容」を表にし、観点が少しでも定まるように配慮した。

なお、調査に当っては、調査用紙などそのままコピーして利用するのは結構であるが、次の「手順」の項を参照され、能率よく、しかも的確な資料を得るために、十分な配慮を期待する。

(2) 意識調査の手順

学習における意識調査は、本来、教授者が学習者の状態を的確に認識できないときに用いる、教授指導反省を得るために開発されたものである。

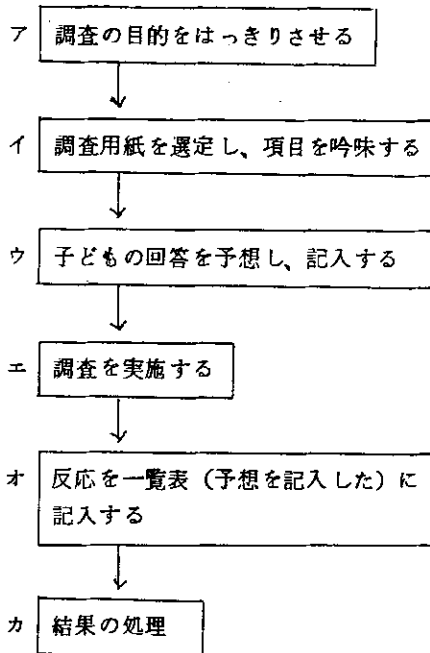
たとえば、新採の教師が一刻も早く児童の

意識をつかみ、学習指導の改善を計ろうとするとき、あるいは、学期始めの新しいクラス編成による実態把握のため、また、研究授業など特に細かな客観的データが必要なときなどに用いられている。

ところが、多くの場合、調査と集計に終始し、処理が不適當であったり、分析が的確になされないため、なかなか教授指導の反省資料まで至っていないのが現状のようである。

そこで、「教授者が学習者の状態をよく詳しくとらえ、教授指導に生かす」という、意識調査本来の目的を果たすための「調査の手順」について述べる。

意識調査実施の手順



- ① 予想と反応の差
- ② 分散度
- ③ 平均的処理
- ④ イメージの変化

(a) 調査目的をはっきりつかむ

意識調査識別グラム（8P参照）しながら、教師は「何について」「どんなことを」はっきりさせたいかを明確にすべきである。

貴重な時間と手間をかけるのであるから、効率のよい調査でありたい。目的や意図をはっきりさせることは、調査内容や調査項目、あるいは実施する場、さらには処理にまでかわる、いわば、意識調査の命である。従って、欲ばらず、調べたいことだけに焦点化すべきであろう。それでも、識別グラムに示されたように、いくつかの方向に派生していくはずである。

そのためには、調査用紙の内容や項目に目を通しておく必要がある。

(b) 調査用紙、および調査項目の吟味

先にも述べたように、一枚の調査用紙には多くの内容が盛り込まれている。いつも、項目のすべてを行うことはとてもできることではない。

そこで、調べたい内容に関係する項目を選ぶ必要がある。調査用紙はそのまま活用し、必要な項目だけ指定して記入させればよい。さらに必要なものは、付加して記入させればよい。そのための一つのめやすが、解説の終わりに掲げた「調査できる内容」一覧表である。

(c) 予想の記入

毎日子どもと接しているながら、案外子どもを知らないことが多い。たとえば子どもが下校してから、教壇に立ち、机列順に子どもの名前とその活躍ぶりを思い起こしてみるがいい。どこまですらすらと思いつぶであろう。まして、毎時間の授業について、一人一人の

姿や学習ぶりを描くことは難しい。

しかし、一人でも多くの子どもについて、少しでも詳しく知ること、あるいは、知ろうとすることは、その子を育てるために極めて重要なことである。

そこで教師は、調査しようとする一つ一つの項目に、次のように予想を記入する。

意識調査記入用紙 1

	調査項目 氏名	①	②	③
		教:児:差	教:児:差	教:児:
1	青木 努	5	5	4
2	青山 春夫	5	5	5
8	伊賀 隆志	5	5	5
4	伊佐 賢二	5	4	4
5	伊藤 忠	4	5	5
6	伊野 太一	4	4	5
7	江守 亨	5	5	5
8	尾関 恒男	5	4	4
9	小山 賢	5	5	5
10	木谷 孝一	5	5	5

むずかしいかもしれない。しかし、空白を残してはいけない。とにかく記入する。むずかしければ、その子について教師は知らないのである。

すべての項目について記入すべきである。苦痛を感じれば感じるほど、教師の目や心、関心は、その子たちにも向けられていく。そうすることによって、教師自身が子どものつかみ方をよりの確に身につけられる。

(d) 調査の実施

調査は短時間に、まじめに行う必要がある

不真面目な雰囲気や態度からは、子どもの学習に対する本当の意識がとらえられず、従って指導の反省資料が得られないからである。

(e) 反応の記入

子どもの反応を教師の予想と併記する。これは、予想と対比して、指導の反省資料、子どものつかみ方の反省資料とする。

(3) 結果の処理

結果の処理については、次の項目について説明する。

- ・ 予想と反応の差から
- ・ 分散度から
- ・ 平均的処理から
- ・ イメージの変化から

① 予想と反応の差

学習場面における意識調査の目的は、児童の学習に対する状態を認識できないときに用いるものである。

しかし教師は、調査をする、しないに関わらず、それぞれの児童生徒に対して何らかの見方をしているものである。その見方は、当を得たものであるかもしれないし、そうでない場合もあるだろう。調査を待つまでもなく、児童の状態がうまくつかめればそれにこしたことはないのであるが、その目をより確かにするために、予想を記入する方法がある。

それには、調査実施に先だち、調査用紙に教師の予想を書きこみ、実施後、児童の記入したものを併記し、差を求めるとのである。

その差によって、児童のつかみ方の確かさを評価するとよい。

ここでは、次の2つの方向が考えられる。

- ⑦ 教師の予想を基準にし、反応を(+)(-)で記入する方法
- ⑧ 予想と反応の差の絶対値を記入する方法

<⑦の方法>

この方法では、次の順で処理する。

- ・ (+)の和を求める
- ・ (-)の和を求める (+)(-)で相殺する)
- ・ 和を求める
- ・ 平均を求める

この場合、平均について考察すると

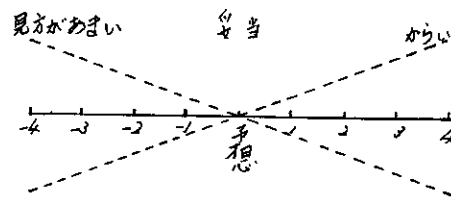
(-)に遠のく ~ 見方があまい.....(A)

0に近い ~ 妥当である.....(B)

(+)に遠のく ~ 見方がきびしい.....(C)

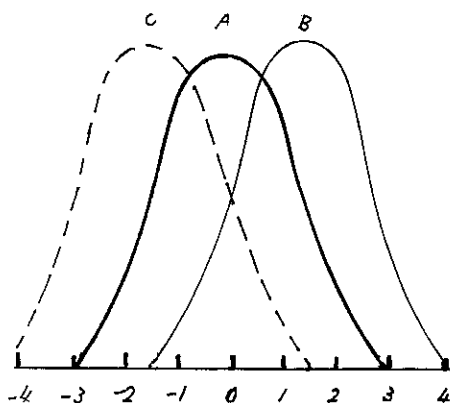
「見方があまい」とは「子どもが良く見てくれるだろう」という予想である。「良く見る」とは、「授業がよいと思っている」との判断であるから、結果的には自分自身の授業を甘く見ていることにもなる。

(+)に遠のく場合は、この逆である。これを図に表すと、



となる。

しかし、これだけでは不十分である。なぜなら、両極端に分散していても0に近くなるからである。従って、絶対値の差の平均が0に近く、0を中心とした中央に散らばるのが最も良いと言える。



<イの方法>

この場合は、予想との差を記入し、その合計によって考察する。アの場合は (+X-) で相殺されるところが多いため、予想とのずれが平均化されてしまうのに対し、これはずれがそのまま残る。

この合計から平均を求めると、1人当たりのずれが算出される。アと同様、平均が0に近いほど教師の子どもの捉え方が厳密であると言える。

ア、イは、いずれも教師の子どもの捉え方そのものの反省資料にもなるし、項目別の個人のずれに着目し、具体的な手がうてることになる。

② 平均的処理

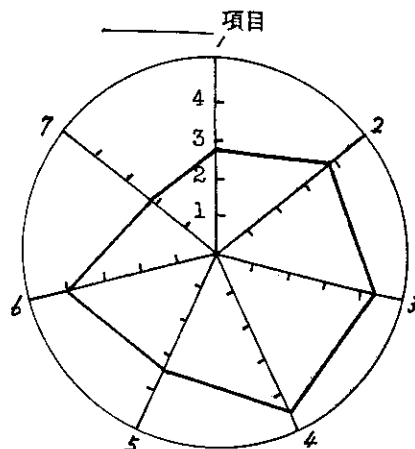
これは男女別、あるいはクラス全体の平均を算出し、傾向を把握する方法である。このやり方にも2通りある。

- ウ 円形で表す
- エ 折れ線で表す

<ウの方法>

項目別の平均を次の図のように示す。

調査 No. 4



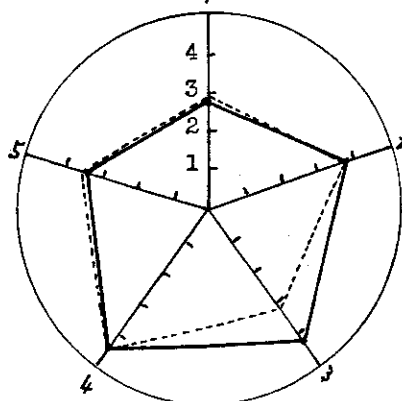
これは、全体の状態がつかめるばかりでなく、この図をクラス分用意し、個人の記録を併記することにより、学級の平均、個人との違いに着目でき、指導の手がかりとなる。

なお、この図による処理は、項目数に限度5あり、5~8項目ぐらいの旧録が適当であるとされている。

下の図は、学級全体の中におけるB子の状態である。この図からすれば、B子は調査項目8について問題があるということである。

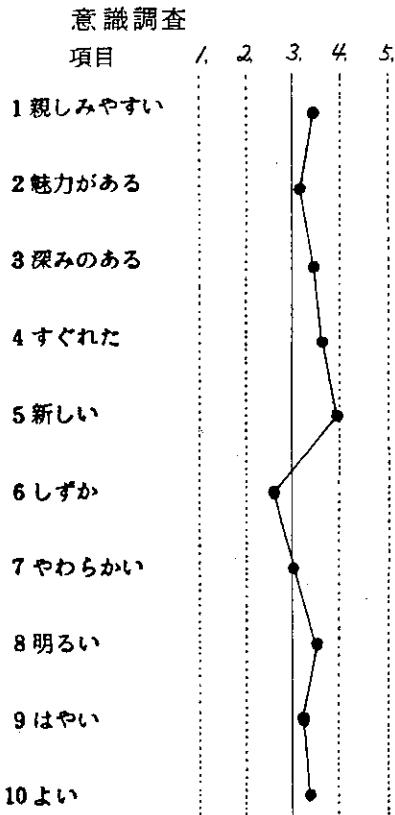
調査 No. 4

1~5 項目



<エの方法>

この方法は、項目別に平均を求め、それを次の図のように折れ線で示し、項目と全体の傾向を知る。ウと同じ方法であるが、多くの項目について、それぞれと全体の比較で眺められる利点がある。

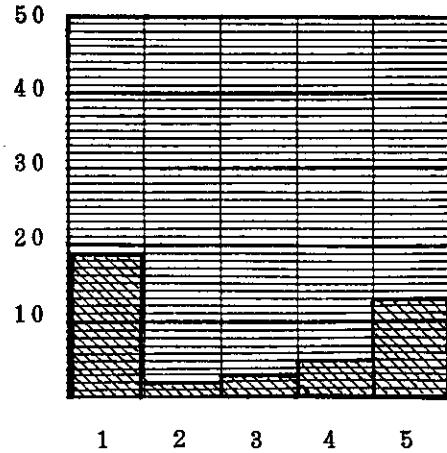


⑧ 度数分布を用いた処理

児童が個々の項目についてどのような反応を示しているかを調べるものである。これについては、(2)の②で詳しく述べられているので重複は避けるが、それぞれの項目について学級内の分散度がつかめる。

次にあげるのは、意識調査12の項目⑨に対する反応例である。

この例によると、満足と不満に2分されている。そこで問題にすべきは、不満の児童に



に対する対応である。

そこで、「調査できる内容」を参考に、他の項目についても分散度を調べると、この問題点の打解のための要因がつかめるはずである。(9ページ参照)

そこまできたととき、この調査項目が生きてくる。

④ イメージの変化

今までに述べたいくつかの処理と考察により、調査内容に対する児童の意識は、次第にはっきりしてくる。それを土台にして、対策を講じるわけであるが、毎日の教師の意識や工夫が、子どもたちの意識にどのような変化を与えたかを明らかにすることは、さらに前進するためには大切なことである。8日や1週間では、変化があまりみられないであろうが、1ヶ月もすれば、教師のとり組み次第では、かなり変化するはずである。また、一題材を行った前と後で変化するであろう。

それを調べるためには、同じ内容の調査、あるいは同じ項目の調査を、一定期間をおいて再度調べるとよい。

ここでの処理の仕方には、次の2通りが考えられる。

- (イ) 前後2回の、それぞれの項目の変化の平均を2重の折れ線で表す。
- (カ) 前の回の反応を基準として、2回目の反応の差を(+) (-)で求め、その平均を2重の折れ線で示す。

〈イ〉の方法の手順〉

- ・ 前の回の反応の記入
- ・ 後の回の反応の記入
- ・ それぞれに合計の算出
- ・ 平均を求める

それを、下図のように表す。

〈調査項目〉

- 1 とっつきにくい
- 2 むずかしい
- 3 魅力がない
- 4 上べだけの
- 5 小さい
- 6 おそい

〈記入用紙〉

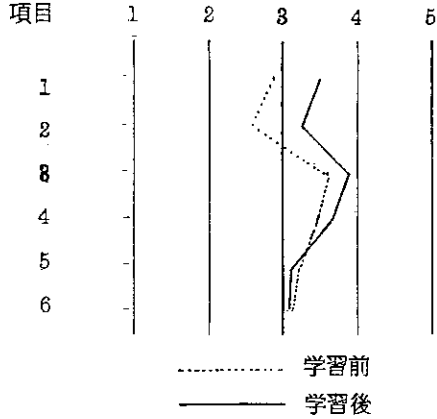
意識調査記入用紙 Ⅰ

調査 No. _____

調査項目 氏名	学校 _____ 年 _____ 組							
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
合計								
平均								
クラス全体の合計								

〈グラフ化〉

平均のグラフ



この方法による別のやり方は、「意識調査の記入用紙Ⅳ」を使用し「カテゴリー分布」を出す方法である。

意識調査記入用紙 Ⅳ

$$A = 0 \times \frac{0 \text{ の人数}}{\text{クラス的人数}} \quad D = 3 \times \frac{3 \text{ の人数}}{\text{クラス的人数}}$$

$$B = 1 \times \frac{1 \text{ の人数}}{\text{クラス的人数}} \quad E = 4 \times \frac{4 \text{ の人数}}{\text{クラス的人数}}$$

$$C = 2 \times \frac{2 \text{ の人数}}{\text{クラス的人数}} \quad F = 5 \times \frac{5 \text{ の人数}}{\text{クラス的人数}}$$

項目	前	0	1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	F	計	平均
① 前後															
② 前後															
③ 前後															
④ 前後															
⑤ 前後															
⑥ 前後															
⑦ 前後															
⑧ 前後															
⑨ 前後															
⑩ 前後															
⑪ 前後															
⑫ 前後															
⑬ 前後															
⑭ 前後															
⑮ 前後															
⑯ 前後															
⑰ 前後															
⑱ 前後															
⑲ 前後															
⑳ 前後															
㉑ 前後															
㉒ 前後															
㉓ 前後															
㉔ 前後															
㉕ 前後															
㉖ 前後															
㉗ 前後															
㉘ 前後															
㉙ 前後															
㉚ 前後															
㉛ 前後															
㉜ 前後															
㉝ 前後															
㉞ 前後															
㉟ 前後															
㊱ 前後															
㊲ 前後															
㊳ 前後															
㊴ 前後															
㊵ 前後															
㊶ 前後															
㊷ 前後															
㊸ 前後															
㊹ 前後															
㊺ 前後															
㊻ 前後															
㊼ 前後															
㊽ 前後															
㊾ 前後															
㊿ 前後															

グラフは、前者の場合と同じになる。度数分布が他の処理に生かせる利点がある。

<(カ)の方法>

この方法では、すべて前の回の反応を基準にし、後の回の反応との差を(+)(-)で表す。即ち、個人の意識の変化を算出する。

例えば、“むずかしい”という項目について、学習前に2であったとする。

むずかしい 1 ② 3 4 5 やさしい
 学習後、同一項目で3になったとすると、
 むずかしい 1 2 ③ 4 5 やさしい

この場合、差を I、前の調査を I₁、後の調査を I₂で表すと、

$$I = I_2 - I_1$$

$$= 3 - 2$$

$$= 1$$

となり、I は1である。この結果から、学習によってイメージがよくなったことがわかる。逆に I が負 (-) になれば、イメージダウンしたことがわかる。

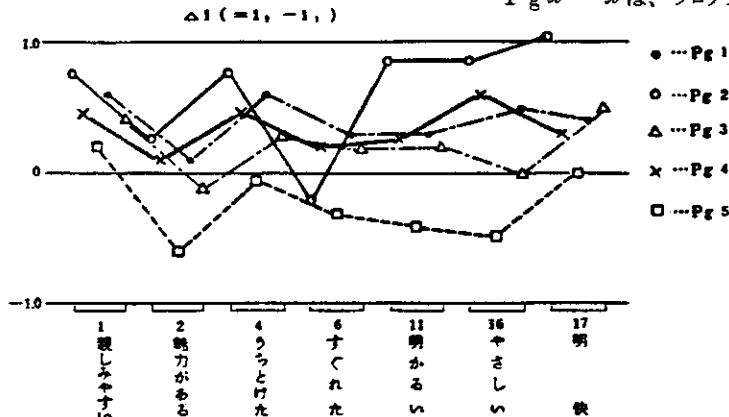
この操作をすべての学習者、すべての項目について実施すれば、どこの学習者が、どのようなイメージ変化をとげたかを知ることができる。

イメージ変化のまとめ方としては、各項目

(例1) CAI 学科プログラムの比較 (イメージ変化)

坂本昂 (1977) 「CAI 用プログラムの評価」機械振興協会)

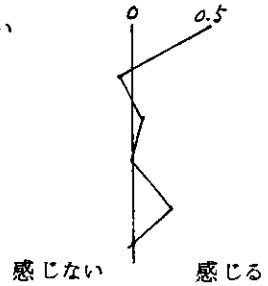
P g x ... x は、プログラムナンバー



の I の平均を求めて、次のようにグラフ化する。

$$I = I_2 - I_1$$

1. とつきやすい
2. やさしい
3. 魅力がある
4. 深みのある
5. 大きい
6. はやい



このようにすると、学習前、学習後でどのようにイメージが変化したかを、項目別また全体的にとらえることができる。

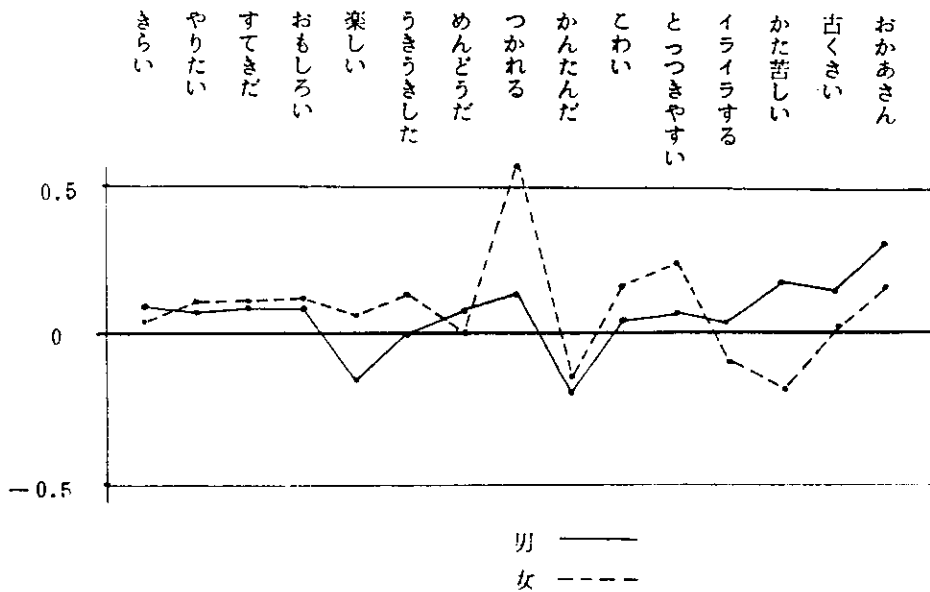
この調査で問題になをのは、学習前に5と1を記入したものが、学習後さらにイメージがよくなったとき、あるいは悪くなったときに、最大値、最小値が決まっているため、同じく5または1を選ぶことになる。このため、最初の調査で5または1を選んだ学習者に対し、前記の事項を考慮する必要があるときには、6、0またはA、Bのような補助記号を設定するのも一方法である。

次に、(カ)の方法の例を示す。

(例2) 家庭科学習のイメージ調査 (1978, 進藤)

“縫う”

$$\Delta I = I_2 - I_1$$



以上、集計・処理・考察のあり方について簡単にふれてきた。この外にも、いろいろな処理法が考えられるが、ここでは、一般的で簡単に処理できるものの紹介にとどめた。

大切なことは、はじめにも述べたように、調査の意図や目的を精選し、明確にすることが何よりも大切である。次いで、学習の展開をさまたげることの少ない、しかも適切な場で、能率的に調査し、迅速に集計・処理・考察を加えることが肝要である。

次に大切なことは、一つ一つの項目の分析、全体との比較の中での考察等、貴重な資料を十分生かし、実践にはね返したい。

なお、巻末には、集計や処理にかかわる用紙が付けてある。コピーするなどして、時間と労力の節約をしていただきたい。

調査記入用紙Ⅰ・Ⅱは、はり合わせての活用を予定したものである。

さらに、今日では、コピーの縮少拡大が自

在である。適当な面積に加工して用いれば、さらに使いやすくなるであろう。

4 指導法に関する調査

(1) 調査内容および実施の仕方

学習における意識調査であるからには、教師の指導技術や指導法に関する意識調査の内容が多いのは当然のことである。

前頁までにふれてきた調査を、指導法に関するものをぬき出し、焦点化しようとするのがこの調査である。

この調査は、学習の展開に即し、主な学習場面を想定して作成されたものである。一時間の授業において、どの場面で、どのような意識を直接的に探り出そうとするもので、教師にとっては、きわめてきびしい評価となるが、逆に指導の改善という立場からすれば、またとない有効な調査である。

この調査の手順

- ・ 調査用紙の作成
- ・ 調査する場の決定
- ・ 調査の実施
- ・ 度数分布を調べる
- ・ 図式化する
- ・ 検討する

(a) 全体として検討

(b) 負の心情を示す項目の検討

この調査を行う場合、やり方を十分に知らせること、特に印象強いもの8つを書き出させないと、集計がむずかしくなる。8項目をとり出させるだけでも、50通り以上の反応が予想されるからである。

A		B		C	
1	学習のめあて	1	多かった	1	できた
2	説明	2	少なかった	2	できなかった
3	資料	3	かんたんだった	3	わかった
4	質問	4	むずかしかった	4	わからなかった
5	注意	5	おもしろかった	5	楽しかった
6	ヒント	6	おもしろくなかった	6	楽しくなかった
7	まとめ	7	はっきりしていた	7	満足だった
8	はげまし、ほめる	8	あいまいだった	8	不満だった
9	指示(命令)	9	ていねいだった	9	うれしかった
10	提示(スライド、OHP)	10	ざつだった	10	悲しかった
11	板書	11	やさしかった	11	すきだった
12	音声	12	きびしかった	12	きらいだった
13	いきぬき	13	はやかった	13	やる気がおきた
14	盛り上がり	14	おそかった	14	やる気がおきなかった
15	学習の量				
16	学習中の不安				
17	作業				

(2) 処理法

(a) 全体としての検討

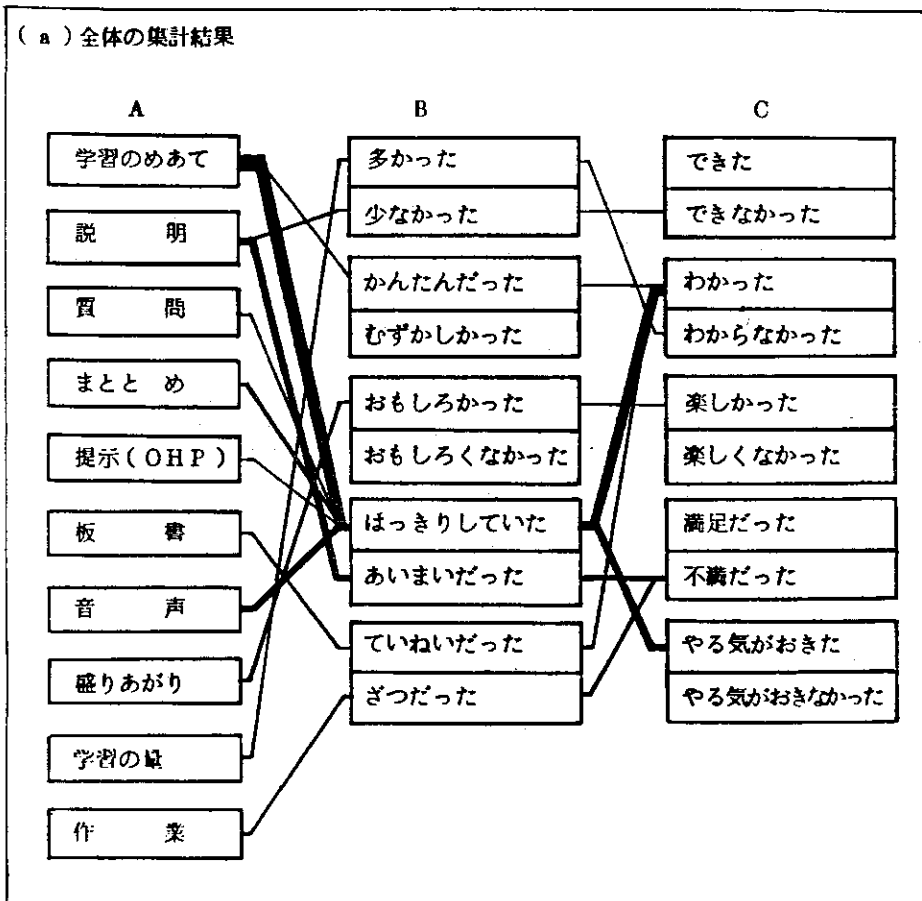
Aの全項目の中から8項目を選び、B、Cと結んだ線を集計する。

先にも触れたが、この場合、項目の結び方がかなり分散するので注意する必要がある。従って、教師がどこに問題があるかを探る場合は、全項目について調査する必要があるが、特に、意図したものを調査する場合は、ある程度Aの項目を絞って行ってもよいと考えられる。

< A群を中心に処理する場合 >

- ・ Aを中心に頻度数を調べる。
- ・ 頻度の多い順にならべる。
- ・ 2以上の結線のあったものは、下図の形式でまとめる。

結線の数	線の太さ
2~4	0.8mm
5~7	0.5mm
8~10	0.8mm
11以上	1.2mm



(b) 負の心情を示す項目の検討

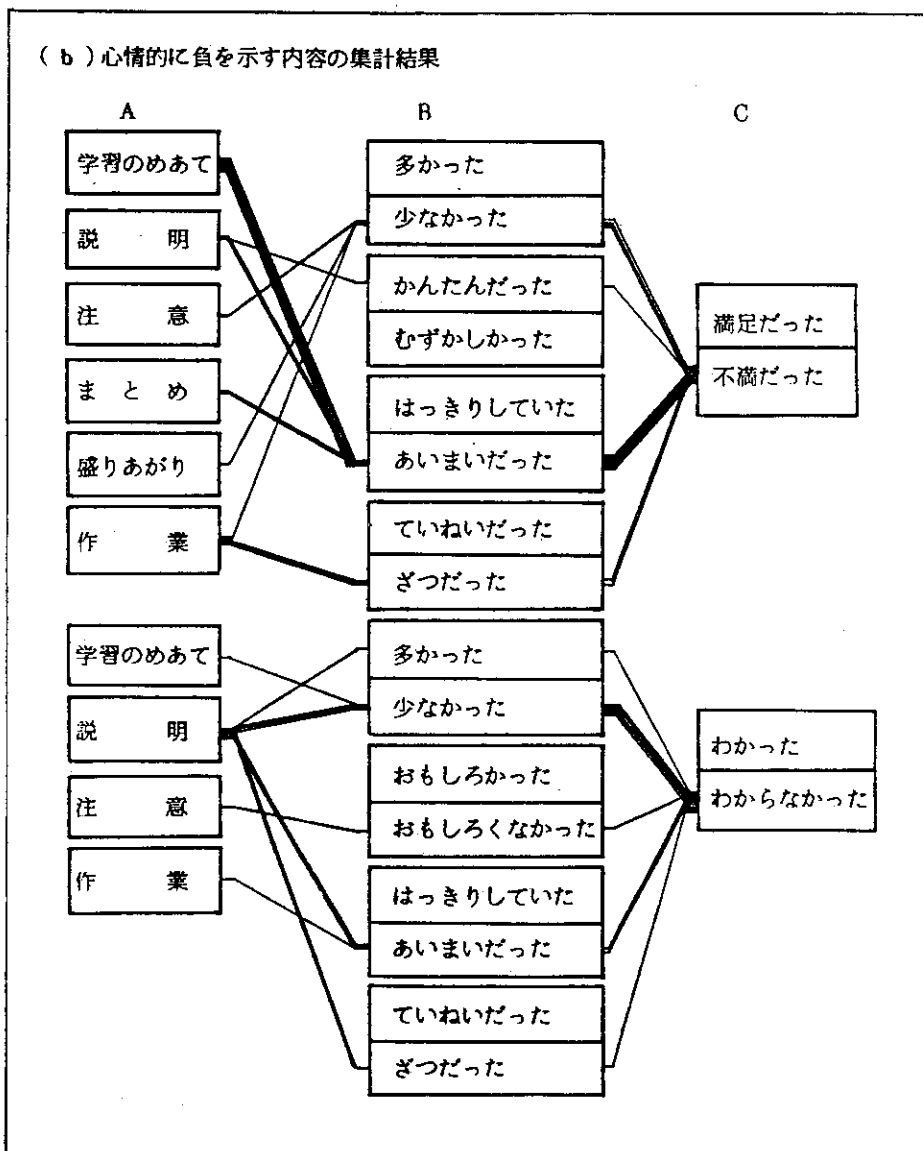
これは、C群に着目した処理法である。例えば、「できた」、あるいは「不満だった」という項目を選び、(a)で調べた頻度数を、C群を中心に整理しなおすのである。(a)の場合の逆で、C→B→Aの関係で頻度数を求めるのである。

この処理法からは、「できた」、あるいは「不満だった」原因はどこにあるかを探ることができ、授業改善につながる。

下図から考察すれば、「不満だった」、あるいは「わからなかった」原因は、

- ① 学習の目当てがあいまい。
 - ② 説明やまとめがうまくいっていない。
 - ③ 作業（実験も含む）が雑である。
- と判断され、その点の指導に関して、追求的に取り組む必要があるわけである。

この繰り返しにより、新採の教師でも着実に指導法や指導の技術を身につけ、「学習の成立」をめざしていけることになる。



5. 調査記入用紙

意識調査記入用紙 I

調査 No. _____

_____ 学校 _____ 年 _____ 組

男・女

調査項目 氏名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
	教員差	教員差	教員差	教員差	教員差	教員差	教員差	教員差	教員差	教員差	教員差	教員差	教員差	教員差	教員差
1															
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															
合計															
平均															
クラス全体の合計															

調査 No. _____

意識調査記入用紙 II

意識調査記入用紙 Ⅱ

調査 No. _____

学校 _____ 年 _____ 組 _____ 男・女

調査項目 氏名	①		②		③		④		⑤		⑥		⑦		⑧		⑨		⑩		⑪		⑫		⑬		⑭		⑮							
	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後						
1																																				
2																																				
3																																				
4																																				
5																																				
6																																				
7																																				
8																																				
9																																				
10																																				
合計																																				
平均																																				
クラス全体の合計																																				

意識調査記入用紙 Ⅱ

$$A = 0 \times \frac{0 \text{ の人数}}{\text{クラス的人数}} \quad D = 3 \times \frac{3 \text{ の人数}}{\text{クラス的人数}}$$

$$B = 1 \times \frac{1 \text{ の人数}}{\text{クラス的人数}} \quad E = 4 \times \frac{4 \text{ の人数}}{\text{クラス的人数}}$$

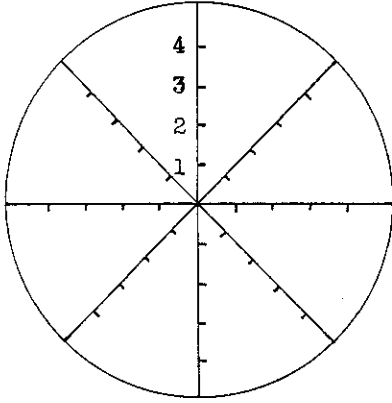
$$C = 2 \times \frac{2 \text{ の人数}}{\text{クラス的人数}} \quad F = 5 \times \frac{5 \text{ の人数}}{\text{クラス的人数}}$$

項目	回	0	1	2	3	4	5	A	B	C	D	E	F	計	平均
①	前														
	後														
②	前														
	後														
③	前														
	後														
④	前														
	後														
⑤	前														
	後														
⑥	前														
	後														
⑦	前														
	後														
⑧	前														
	後														
⑨	前														
	後														
⑩	前														
	後														
⑪	前														
	後														
⑫	前														
	後														
⑬	前														
	後														
⑭	前														
	後														
⑮	前														
	後														

意識調査記入用紙 Ⅳ

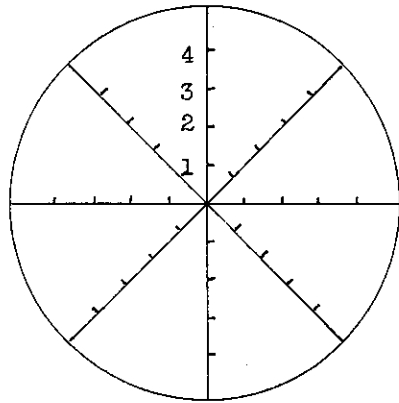
調査 No. _____

_____ 項目



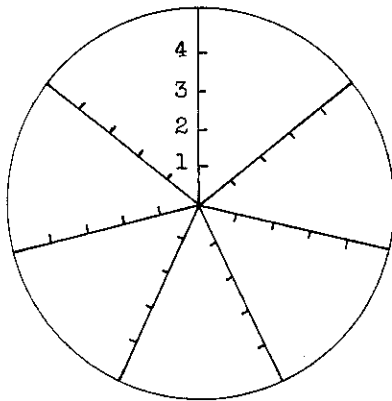
調査 No. _____

_____ 項目



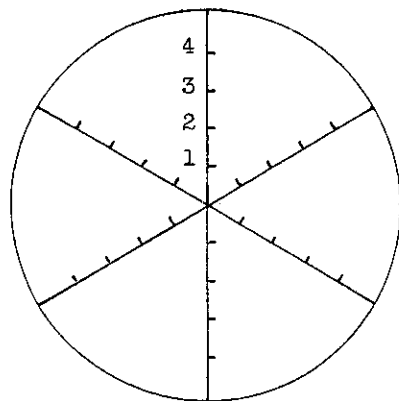
調査 No. _____

_____ 項目



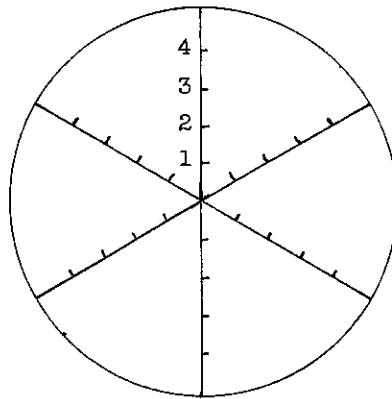
調査 No. _____

_____ 項目



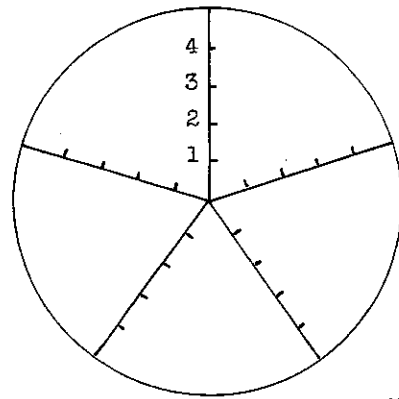
調査 No. _____

_____ 項目

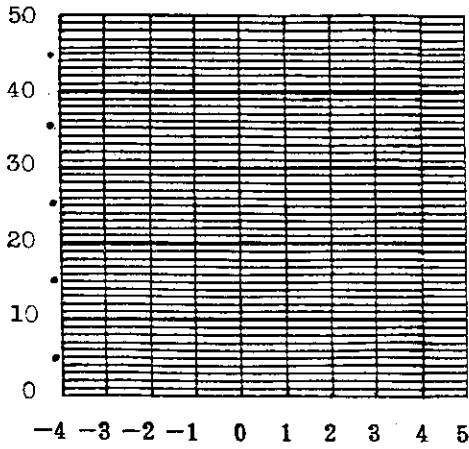


調査 No. _____

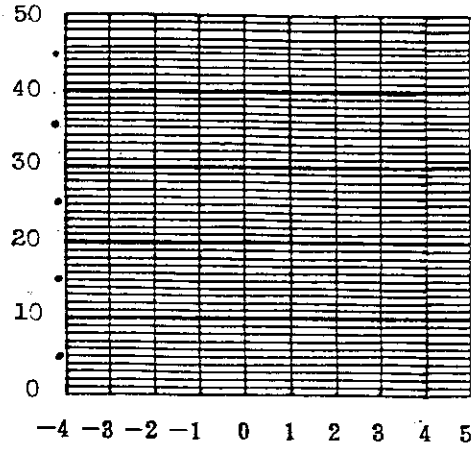
_____ 項目



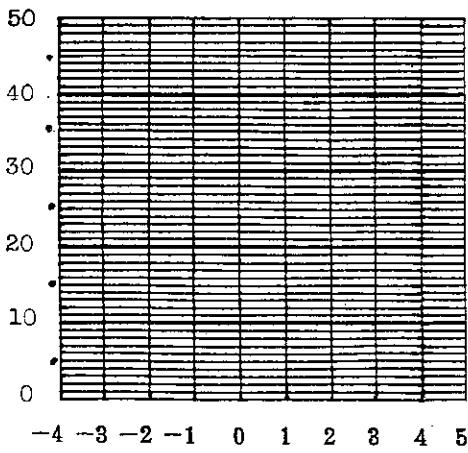
予想と平均とのちらばり



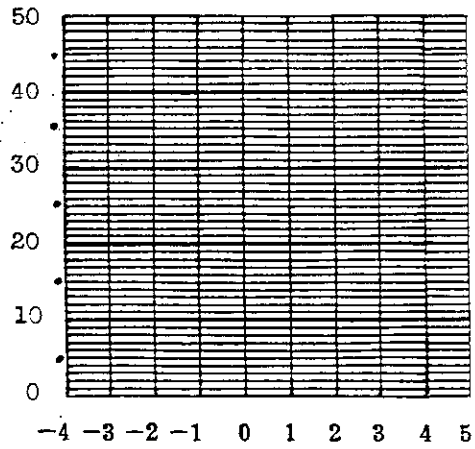
予想と平均とのちらばり



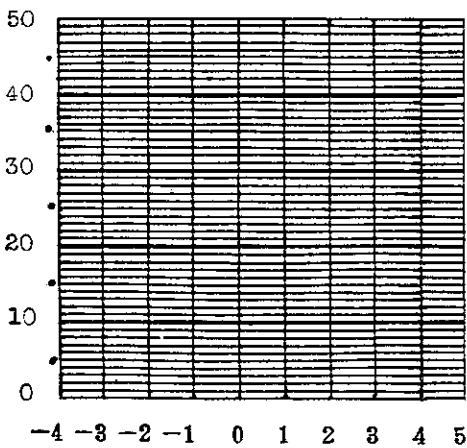
予想と平均とのちらばり



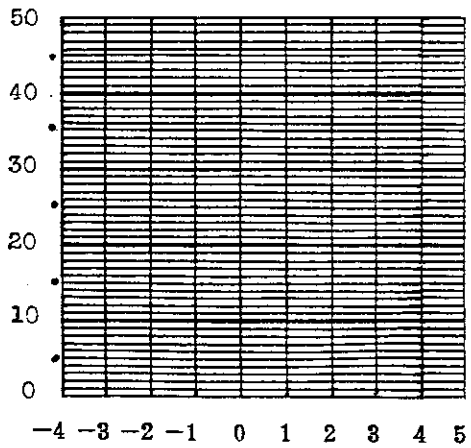
予想と平均とのちらばり



予想と平均とのちらばり



予想と平均とのちらばり



意識調査記入用紙 Ⅶ

調査 No. _____

_____ 項目の分散度

50					
40					
30					
20					
10					
	1	2	3	4	5

調査 No. _____

_____ 項目の分散度

50					
40					
30					
20					
10					
	1	2	3	4	5

調査 No. _____

_____ 項目の分散度

50					
40					
30					
20					
10					
	1	2	3	4	5

調査 No. _____

_____ 項目の分散度

50					
40					
30					
20					
10					
	1	2	3	4	5

調査 No. _____

_____ 項目の分散度

50					
40					
30					
20					
10					
	1	2	3	4	5

調査 No. _____

_____ 項目の分散度

50					
40					
30					
20					
10					
	1	2	3	4	5

学校 _____ 年 _____ 組 (男、女) _____ 番 氏名 _____

A 群		B 群		C 群	
1	学習のめあて	1	多かった	1	できた
2	説明	2	少なかった	2	できなかった
3	資料				
4	質問	3	やさしかった	3	わかった
5	注意	4	むずかしかった	4	わからなかった
6	ヒント				
7	まとめ	5	おもしろかった	5	楽しかった
8	はげまし、ほめる	6	かもしろくなかった	6	楽しくなかった
9	指示(命令)				
10	机間巡視	7	はっきりしていた	7	満足だった
11	板書	8	あいまいだった	8	不満だった
12	先生の声				
13	学習の量	9	ていねいだった	9	うれしかった
14	プリント	10	ざつだった	10	残念だった
15	授業の盛り上り				
16	学習中の不安	11	やさしかった	11	すきだった
17	テレビ	12	きびしかった	12	きらいだった
18					
19		13	はやかった	13	やる気がおきた
20		14	おそかった	14	やる気がおきなかった

- ◎Aの1～20の項目について、感じたところを、A～B～Cと結んでください。
- ◎とくに強く感じたAの項目を3つ選び、A、B、Cを赤い線で結んでください。
- ◎選んだ3組の数字を下の表に記入し、それぞれについて感想を書いてください。

	A	B	C	感想
(ア)				
(イ)				
(ウ)				

全体的な感想

よかったこと

わるかったこと

昭和54年10月 発行

「学習の成立」をめざす意識調査の活用法

発行者 映像の学習効果研究プロジェクト

発行所 岐阜市長良城之内 (〒502)
岐阜大学教育学部
カリキュラム開発研究センター内
成瀬先生記念会